

85

55

Ⓜ



雲外居士著

訂正增補

基本戰術摘要解義 第三卷

川流堂小林又七發行



雲外居士著

訂正增補

基本戰術摘要解義

第三卷

川流堂小林又七發行



## 序言

本書は元來江湖諸君の研究資料に供するの目的を以て最初より著述したる者にあらず唯た著者等のいたすら草紙に外ならざりし然るに諸彦の勸告に由て發行はなしたるものゝ前陳の次第なるを以て固より不完全なるを免さず各位幸に此等の遺漏を補ひ賜はん爲めに本文紙面に別に上欄を設けり即ち此上欄は遺を補ひ漏を充たすの余地となし併せて著者が諸者の閲讀に便ならしめん爲めの註記を載するは供せり

著述上各兵家の(参考書中に記せる各書)所説紛々として決せざる件は





概ね各外國兵事新聞に由て近今の學說を斟酌し以て斷案を下せり然きども新材料なく爲めに遂に斷案を下す能はざりし件は其儘諸說を陳列して參考に供し置けり殊に外國兵書諸新聞を參考に供するに當り悲哉著者が各國の語學に不熟なるを以て其譯出したる所の言辭が文を爲さず或は了解に苦しき所もあらん是を特筆して謝し置かんとする所なり

各局部各専門の事柄に就き本書述ぶる所の外尙ほ深く研究を要せらるゝ節は本書參考書目中の各書を閱讀せらるるは敢て遺憾なかるべし

●基本戰術摘要解義ノ目的

方今戰術ノ研究ニ資スル書籍其數少シトセス然レトモ概ネ其所說局部ニ留マリ一般ニ諸原則ヲ網羅スルモノナシ例ヘハ甲ハ戰鬪ノミ乙ハ野外勤務ニ屬スルコトノミ丙ハ戰略統帥ニ關スルコトノミ丁ハ補助學ニ關スルコトノミ等ノ如シ故ニ全般ノ戰術戰略ヲ一通リ了解セント欲セハ諸種ノ書籍ヲ閱讀シタル後ニ非ラザレバ能ハズ是レ其研究ニ時日ヲ費スコト多キノミナラズ其勞又尠ナカラズ乃チ本書ハ短時日ニ於テ其勞少ナク迅速ニ諸般ノ原則ヲ了解シ普通作戰ノ統帥ニ支障ナキ智識ヲ與ヘント欲スルモ



ハナリ、故ニ、萬書ヲ集メテ、始メテ、知リ、得ベキ、原則ヲ、僅ニ、此  
一書ニ、悉皆、綱羅シ、俗言セハ、戰略戰術原則ノ、大字典タラシ  
ムルニアリ

●基本戰術摘要解義著述ノ方法

基本戰術ノ原則ハ悉皆綱羅記述セリ然レトモ其原則ノ由  
テ生スル演約的理由ノ説明等ニシテ既ニ士官學校其他將  
校團教育等ニ由テ普ク教授サレアルベキ者ハ勉メテ節畧  
シ唯タ其要點ノ結果ノミヲ記シ以テ著述ノ順序ヲ規正ス  
ルニ留メ成ルヘク煩雜ヲ避ケ單簡ニ速ニ要點ヲ了解シ易  
キカ如クス但シ普通通知ラレアル平易ノコトモ時トシテハ

記述セリ是レ他ノ照應引證等ノ爲メ著述ノ手段上已ムヲ  
得サルコトナレハ幸ニ諒察ヲ乞フ

第一篇乃至第四篇ハ戰略戰術ノ學理的上原則ヲ述ヘ就中  
想定ニ從ヒ作戰ノ經過情況ヲ現出セシメテ説明スルニ  
アラサレハ充分理解セラレ難キ件、並ニ想定ニ從ヒテ説  
明スルヲ利益ト思考シタル件ハ唯タ其基礎ノ原則ノミ  
ニ留メタリ而シテ其精細ハ第五篇ニ遜ルコト、セリ  
第五篇ハ諸原則ヲ實際ニ應用スル方式研究ヲ主トシ所謂  
應用戰術ノ研究ニ資シ併セテ第一篇ヨリ第四篇ニ至ル  
間ニ於テ説述シ能ハサリシ戰略戰術ノ原則ヲ例證シテ



說述ス

第六篇ハ上陸作戰並ニ國防作戰ノ原則並ニ應用ノ一端ヲ述ブ

第七篇ハ要塞ノ攻守法並ニ之レニ附帶スル諸原則ヲ述ブ

第八篇ハ守勢攻勢ニ於ケル各種後方連絡並ニ連絡線上ニ

於ケル諸原則ヲ述ブ

補遺トシテ著述ノ順序上第一篇乃至第八篇中適當ノ條項

ニ於テ説明シ能ハサリシ件並ニ戰略戰術ト互ニ相待ツ

テ緊要ナル補助學ヲ述ブ

附録トシテ軍事學諸般ノ必要件ヲ摘記シ幹部演習圖上對

策兵棋野外演習等ノ良友顧問タラシム

●參考書目

歩兵操典、騎兵操典、砲兵操典、工兵操典、野外要務令、諸教範、Meckel氏著基本戰術、Lehnert氏著軍隊指揮官手簿、佛國サンシール兵學校兵學教程、佛國砲兵學校築城教程、佛國中將Berthaut氏行軍戰術、佛國參謀少佐バルトー氏戰術講義、佛國シュニーガン氏戰論、他兵連合野戰砲兵、クラフト戰略論、獨乙野外要務令、陸軍大學校帥兵規則、陸軍大學校帥兵術、野戰砲兵士官手簿、基本戰術講授錄、戰術講授書、日本士官學校戰術教程、同築校教學校教程、同兵器學教程、ブルームーメー戰略論、參謀服務學、偕行社記事、大學校交通學、ブリアルモン氏戰塲築城論、獨乙兵學校築城及ヒ攻城法教程、ラスニール氏騎兵搜索戰術、步兵論、騎兵論、要塞戰注、マハン海權論、海戰術、千八百七十年普佛戰、全七十七年魯土戰、丁抹戰等ノ論評、普國兵事新報、佛國兵事新報、ドラゴミローフ氏戰術論、海戰史論其他各國時々ノ新聞ハ略ス



# 基本戰術摘要解義

## 總目錄

### 第一卷

第一篇 一般ノ總說並ニ各兵種固有ノ戰術

第二篇 諸種ノ戰鬪原則

### 第二卷

第三篇 局地戰及ビ特別枝隊ノ小戰

第四篇 野外帥兵術  
行軍、駐軍、衛生、給養、命令、訓令、  
判斷等總テ帥ニ關スルモノ

### 第三卷

第五篇 基本戰術ノ應用  
枝隊戰術ヨリ混成旅團、師團等ノ作  
戰ニ進ミ軍ノ作戰ニ移ル端緒マデ



第四卷

第六篇 上陸作戰、國防作戰

第七篇 要塞戰

第八篇 後方勤務

第五卷

補遺

方今ノ新戰術、海上海岸戰、戰畧統帥ノ諸計畫、各國諸兵家ノ新說等ヨリ築城、交通、兵器、地形等ノ補助學等ニ至ルマデ前篇中適當ノ處ニテ說叙シ能ハザリシモノヲ編纂ス

第六卷

附錄

軍事諸般ノ必要件ヲ摘記シテ指揮官ノ手筈タラシム

基本戰術摘要解義第二卷

目次

第五篇 基本戰術ノ應用

●基本戰術ヲ應用研究スル爲メノ注意

●想定

●作戰九月一日

第一問 九月一日正午十二時ニ於ケル枝隊長ノ情況

判斷(運動發起ニ當リ爾後ノ作戰方針ヲ定ムル情況判斷)

●情況判斷ノ例



第二問 九月一日正午十二時ニ於ケル情況判斷ニ基キ下

スヘキ命令並ニ處置(敵ニ遠キ時ニ於ケル運  
動發起ニ關スルモノ)

● 敵ニ遠ク警戒ノ顧慮ナキ時ニ於ケル軍隊區分 一三

● 敵ニ遠ク警戒ノ顧慮ナキ時ニ於ケル行軍命令ノ一 一五

例 一七

● 旅次行軍ヲナスニ當リ枝隊長ノ爲スベキ處置 二一

● 旅次行軍ヲナス時ノ命令及ビ處置ニ關スル説明並 二二

ニ注意 二二

第三問 九月一日正午十二時ノ枝隊命令ニ基キ各隊長ノ

處置 三一

● 將校斥候ヲ用ユル時機 三三

● 騎兵歩度ノ配合 三七

● 九月一日午後三時迄ニ於ケル獨立騎兵隊長ノ處置 四一  
並ニ命令 四四

● 將校斥候ニ與フル訓令 四四

● 九月一日午後三時以前ニ於ケル架橋隊長ノ處置 四七

● 同右縱隊長ノ處置 四八

● 設營隊ノ編成 四九

◎ 九月一日午後九時ニ於ケル情況 五〇

● 門橋ヲ以テスル渡河ノ時間 五二

● 軍橋一橋節ノ架設ニ要スル時間 五四

● 作戰九月二日 五六

◎ 九月二日ニ於ケル情況 五六

● 將校斥候ノ報告 五七



● 騎兵隊長ノ敵狀判斷

六一

● 獨立騎兵隊長ノ報告

六六

● 騎兵ノ襲撃

六八

● 騎兵徒歩戰

七三

● 敵ニ遠キ時ニ於ケル行軍前哨ノ警戒

七六

◎ 九月二一日午後六時ニ於ケル情況

七八

第四問 伊勢原附近ニ於ケル獨立騎兵ハ如何ニ宿營スベ

キカ

七九

● 自衛ノミノ目的ヲ以テスル騎兵ノ宿營警戒法及ビ

他隊警戒ノ目的ヲ以テスル宿營警戒法

七九

◎ 九月二一日午後九時ニ於ケル情況

八一

第五問 九月二一日午後九時ニ下スベキ枝隊命令

(敵ニ稍々近ヅキタ  
ル敵ノ行軍命令)

● 左縱隊ニ與フル命令

八二

● 右縱隊ニ與フル命令

八四

● 輜重梯隊ニ與フル特別命令

八六

● 騎兵隊長ニ與フル訓令

八七

● 行軍命令並ニ訓令ニ關スル説明注意

八九

● 九月二一日午後九時ニ於ケル枝隊長ノ情況判斷

八九

● 大行李集合ニ關スル注意

九二

第六問 九月二一日午後九時ニ於ケル訓令ニ基キ獨立騎兵

隊長ハ明日如何ナル決心並ニ處置ヲナスヤ

九九

● 敵騎ト相對シ敵ノ騎幕内ニ潜入シテ後方ヲ搜索セ  
ントスル時ノ決心處置

九九



● 騎兵集團ノ必要

● 作戰九月三日

◎ 九月三日午前ニ於ケル情況

第七問 枝隊長ハ宿營ノ爲メ如何ナル順序ヲ以テ如何ナ

ル處置ヲナスヤ

- 行軍ヨリ宿營ニ移ル時ノ處置順序 一〇六
- 宿營命令(狹舍營) 一〇六
- 宿營命令ニ就キ説明注意 一〇八
- 行軍ヨリ駐軍ニ就ク爲メ前衛司令官ノ處置順序 一一一
- 前衛ヨリ前哨配布 一一三
- 前衛ノ宿營 一一三
- 前營命令 一一五

● 河川防禦ノ準備陣ニ關スル説明

障礙物ノ後方ニ於ケル準備陣

◎ 九月三日午後ニ於ケル情況

第八問 九月三日午後ニ於ケル枝隊長ノ敵狀判斷

- 枝隊長ノ電報報告 一一〇

◎ 九月三日午後九時ニ於ケル情況

第九問 九月三日午後九時以後ニ於ケル枝隊長ノ決心處

置(敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ前進スル時ノ枝隊長ノ決心處置)

- 近キ敵ニ向ツテ前進スル時ノ行軍命令 一三三
- 騎兵隊長ニ與フル訓令 一三七
- 敵ニ近キ時ノ軍隊區分 一四〇
- 九月三日午後九時ニ於ケル諸命令並ニ軍隊區分ニ 一四二



關スル説明注意

●退路變換ノ注意

第十問 九月三日午後九時ノ命令ニ基キ左側支隊長及ビ

前衛司令官ノ處置

一五四

●輕捷ノ運動ヲ以テ兵力ノ寡ヲ補ヒ以テ衆敵ニ對スル小支隊

一五四

●非常ノ運動ヲ要求センガ爲メニ準備スル特別ノ處置

一五七

●歩兵ノ背囊ヲ運搬スルニ要スル人馬車輛數

一五八

●小枝隊ニ下スヘキ命令

一六一

●前哨ヨリ行軍ニ移ル

一六四

●普通ノ形勢ニ於テ前衛ノ行軍隊形序列ニ關スル説

明注意

●作戰九月四日

一六七

◎九月四日午前七時ニ於ケル情況

一七〇

●九月四日午前七時ニ於ケル騎兵隊長ノ報告

一七〇

(發送途中前衛司令ニ披見セシムルヲ要スルモノ)

一七二

●野砲隊ヲ門橋ニ由テ漕渡セシムル時間

一七六

◎九月四日午前八時二十分ニ於ケル情況

一七七

第十一問 九月四日午前八時二十分ノ情況ニ於テ研究ス

一七九

ヘキ事項

●前衛ガ本隊ノ開進ヲ掩護スル爲メ敵ニ先ンジテ要

地ヲ占ムル場合

一八〇

●砲兵ノ目標偵察

一八四



- 敵ト遭遇シ速ニ障碍物前方ニ開進スル爲メノ分進 一八八
- 戦闘近迫ニ當リ大行李ノ顧慮 一八九
- 獨立騎兵ヲ前衛司令官ニ付シ前衛騎兵トス 一九〇
- 敵ト遭遇ニ當リ指揮官ハ成ルベク敵方ニ近ク位置スルヲ要ス 一九一
- 九月四日午前八時二十分ニ於ケル左側支隊長ノ情況判斷(攻撃ヲ以テ敵ヲ緊留ス) 一九四
- 攻撃精神ニ就キ 一九七
- 攻撃精神ノ程度調節 二〇〇
- ◎ 九月四日午前九時四十分迄ニ於ケル情況 二〇〇
- 敵ト第一ノ衝突ニ於テ前衛ノ敵狀偵察 二〇一
- 前衛ガ劣勢ナル敵ニ遭遇スル時 二〇三

◎ 九月四日午前十一時迄ニ於ケル情況

- 騎兵ノ威力搜索 二〇五
- 前衛ガ優勢ナル敵ニ對スル場合 二〇八
- 第十二問 陣地ニアル敵ヲ攻撃スル場合ノ研究 二〇八
- 陣地ニ據ル敵ヲ攻撃スル原則 二〇九
- 開進命令 二一〇
- 開進命令ニ就キ説明 二一一
- 敵ニ側面陣地ヲ占メラル、不利 二一二
- 攻撃ノ爲メニ下ス合同命令 二一四
- 攻撃命令ニ付キ説明 二一六
- 砲兵戦闘ニ關スル要件 二一八
- 騎兵ノ戦闘ニ於ケル要件 二二五



◎九月四日午後一時半迄ニ於ケル情況

- 各個擊破
- 全線總攻撃實施ノ時機
- 砲兵最後ノ決戰砲擊
- 豫備隊ヲ以テ敵ノ逆襲ヲ防止ス
- 陽動ノ効並ニ攻撃突進

◎九月四日午後二時ニ於ケル情況

- 第十三問 追撃及ビ遭遇戰ノ研究
- 敵ヲ急追スルヲ要スル場合
- 戰鬪後追撃ニ移ル時ノ各別命令

◎九月四日午後二時四十分頃ニ於ケル情況

- 遭遇戰ニ於ケル開進命令ト戰鬪命令ト同時ナル者

二二八

二二三〇

二二三三

二二三五

二二三六

二二二九

二二四一

二二四一

二二四一

二二四二

二二四九

ノ各別命令

二五一

- 高等指揮官ノ戰鬪開始ノ時並ニ戰鬪間ノ位置命令  
下達ノ注意

二五六

- 砲聲ニ前進

二五九

◎九月四日午後四時迄ニ於ケル情況

二六〇

第十四問 攻撃ノ目的ヲ以テスル地形判斷

二六二

- 所謂夜暗ヲ利用シテ有効射程ニ接近スル場合

二六三

- 戰鬪後ニ於ケル部隊連繫ノ恢復整頓

二六八

- 戰鬪後彈藥ノ補充

二六九

- 縦列ヲ分ツテ一枝隊ニ屬スル時

二七一

- 縦列ヲ戰鬪部隊ノ方ニ招致スル時ノ距離

二七二

- 空縦列ノ補充

二七二



- 縦列ノ宿營 二七四
  - 戦闘後ノ給養 二七六
  - 師團監督部長ノ給養ニ關スル意見具申 二七七
  - 輜重梯隊ニ就テ 二七九
  - 梯隊ノ跟隨距離 二七九
  - 梯隊ノ宿營 二八〇
  - 梯隊ノ退却 二八〇
  - 戦闘後ノ宿營 二八一
  - 明日ニ係ル攻撃ノ諸準備 二八二
  - 戦闘後ノ命令並ニ處置 二八四
  - 輜重ニ與フル特別命令 二八四
- ◎ 九月四日夜ニ於ケル情況 二九五

● 作戰九月五日

- 糧食炊爨ノ一例 二九五
- 敵ニ近キ嚴重ナル前哨 二九五
- ◎ 九月五日午前七時ニ於ケル情況 二九七
- 退却前ニ爲ス逆襲 三〇〇
- 逆襲ノ時機 三〇二
- ◎ 九月五日午前七時三十分ニ於ケル情況 三〇三
- 第十五問 持久防禦ノ目的ヲ以テスル陣地判斷 三〇四
- 第十六問 九月五日午前七時四十分ヨリ施行スル師團ノ退却方法 三〇九
- 戦闘後退却ニ移ル時ノ各別命令 三一三
- ◎ 九月五日午前八時頃ヨリ正午十二時ニ至ル



情况

◎九月五日午後ニ於ケル情况

- 戦闘前哨 三二五
- 携帯糧秣ヲ用ユル場合ノ一例 三二七
- 戦闘中止ノ命令 三二七
- 持久戦ノ要領 三二八
- 攻撃ヲナス師團戦闘指揮ノ例 三二九
- 三三一
- 三三四

基本戦術摘要解義第三卷

第五篇 基本戦術ノ應用

基本戦術ノ應用ヲ研究スル爲メノ注意

基本戦術ノ各種原則ハ前篇ニ於テ稿ヲ重ネ既ニ説述セリ抑々戦術ノ原則タルヤ一般ノ準繩タルニ過キスシテ千種萬別種々錯雜ノ情况ニ於テ常ニ一定不變ニ之レヲ適用シ得ヘキモノニ非ス原則ノ範圍ヲ脱セサル限リ時ノ情况ニ從ツテ之レヲ應用シ爰ニ初メテ戦術ノ妙ヲ現ハスヘキナリ更ニ換言スレハ應用ト雖モ決シテ基本ノ原則ヲ放擲スルヲ許サス世上或ハ應用トカ或ハ活用トカラ口實トシ原則ヲ無視スル如キモノアリ是レ實ニ誤レルノ甚シト云フヘシ原則ノ軌道ヲ脱セハ作戰ハ猶ホ脱線ノ汽車ニ等シク決シテ目的點ニ達シ能ハサルナリ



乃ハチ本篇ニ於テハ此應用ノ方法範例并ニ作戰ノ一般經過變遷ヲ示シ且ツ諸種ノ難況ニ處シ迅速適當ノ處置ニ出ツヘキ判斷決心統帥指揮諸命令訓令報告等ヲ研究セントス而シテ是等ノ研究說叙ヲナスニ當リテハ作戰ヲ一定ノ情況ニ從ツテ進歩セシメサルヘカラサルヲ以テ其照應スヘキ基本ノ原則ヲ其都度一々再說スル能ハサルノミナラス此ノ如クスル時ハ作戰ノ經過記事論說ヲ錯雜ナラシムルノ患アリ故ニ前篇既說ノ原則ニシテ照應ハ爲メ再說ハ必要アルモ極メテ單簡ニシテ省畧ヲ勉ムルヲ以テ本篇應用ヲ研究スルニ當テハ前篇ノ原則ヲ常ニ記憶シアルヲ要ス

又本篇ハ應用ノ模範ヲ一通リ示スヲ主トスルヲ以テ想定並ニ情況ヲ勉メテ簡單ニ從ヒ讀者ノ了解ヲ容易ナラシメントス

想定

### 想定

#### 所用地圖

三十分一

東京、横須賀、甲府、静岡、厚木、下糟屋、平塚、曾根、附近

敵ハ全外海ヲ制シ我艦隊ハ東京灣内ニ封鎖セララル  
海岸監視哨ノ急報ニヨレハ敵ノ運送船數十艘ハ八月  
三十一日夜半ヨリ續々駿河灣ニ集合ス  
東京灣防禦總督ハ九月一日東京ニ於テ一枝隊ヲ編成  
ス此枝隊ノ任務ハ少クモ馬入川以東ノ地區ヲ領有シ  
軍ノ相摸平原ニ進出スルヲ掩護スルニアリ  
此枝隊ハ九月一日午後三時ヨリ運動ヲ起シ得



枝隊ノ編組

司令官 少將某

歩兵第一聯隊

歩兵第二聯隊(第三大隊欠ク)

騎兵第一中隊及ヒ第二中隊(一小隊欠ク)

野砲兵第四中隊

山砲兵第三大隊(第五、第六中隊)

工兵第一中隊及ヒ第二中隊ノ一小隊

衛生隊二分一

架橋縱列

歩兵彈藥一縱列ト三分一

九月一日正  
午十二時ニ  
於ケル枝隊  
長ノ情況判  
斷  
運動發起ニ  
當リ爾後ノ  
作戰方針ヲ  
定ムル情況  
判斷

砲兵彈藥一縱列  
野戰病院二個  
糧食一縱列

注意 東海道鐵道ハ使用スルヲ得ス

第一問

九月一日正午十二時ニ於ケル枝隊長ノ情況判斷

九月一日正午十二時ニ於ケル枝隊長ノ情況判斷ハ必竟枝隊長カ今後ノ作戰動作ヲ決定セン爲メ如何ニセハ作戰目的ニ適スルヤ或ハ利益アリヤ或ハ不利ナルヤ等種々ノ關係ヲ判斷スルモノニシテ此情況判



斷ニ付テ枝隊ノ作戰計畫大要ハ定メラルモノナリ  
乃ハチ枝隊長ハ左ノ件々ヲ考慮判斷シ其判決ヲ以テ枝隊ノ作戰方針  
トセサルヘカラス

一、敵狀ニ就テ

イ、駿河灣ニ集合スル數多ノ運送船ハ何ヲナサントスルモノナル  
ヘキカ

ロ、敵ノ兵力ハ如何、敵ガ上陸スルモノトセハ第一ニ如何ナルコト  
ヲナスヘキヤ

ハ、敵ガ相模平原ニ進出スル希圖ヲ有スルモノトセハ幾日ニシテ  
進出スヘキカ

二、我任務ニ就テ

イ、任務ノ性質ハ如何

ロ、任務ヲ果ス爲メニハ如何ナル處置ヲ取ルヘキカ

三、地形ニ就テ

イ、彼我ノ間ニ存スル地形一般ノ觀案

ロ、地形ハ彼我ニ如何ナル利益或ハ不利ヲ與フルヤ

ハ、地形ヲ如何ニ利用セハ可ナルヤ

以上ノ判斷及ヒ此判斷ヨリ生スル判決ヲ書キ顯ハスニハ概ネ左ノ如  
クナルヘシ

九月一日正午十二時ニ於ケル枝隊長ノ情況判斷

判決

枝隊ハ大山街道及ヒ東海道上ヨリ二縱隊ヲ以テ前進  
シ用田附近ニ準備陣ヲ占ムルヲ要ス



敵狀ニ就テ  
ノ判斷理由

理由

凡ソ上陸ニ  
當リテハ先  
ツ上陸掩護  
隊ヲ上陸セ  
シメ此掩護  
ニ由テ後續  
部隊ヲ上陸  
集團セシメ  
然ル後更ニ  
前進運動ニ

駿河灣ニ集合セル敵ノ運送船ハ沼津若クハ清水港附近ニ上陸ヲ企ツル者ナルコト明ナリ而シテ其兵力ハ未詳ナレモ運送船數十艘ト云ヘルヲ以テ見ルモ決シテ劣勢ナル者ニハアラサルヘシ今敵ガ東京ニ侵入スルノ目的ヲ以テ九月一日未明ヨリ上陸ヲ開始シタルモノトセハ九月一日中ニハ少クモ我ト同等以上ノ兵ヲ上陸セシメ速ニ箱根山脈ノ各隘路ヲ占領シ後續部隊ノ隘路進出ヲ容易ナラシムルコトヲ勉ムルハ至當ノ事ナリト雖敵ガ全力ヲ舉ケテ相摸平原ニ進出スルハ一兩日内ニ爲シ能フ所ニ非ラス蓋シ大部隊ノ上陸ハ單時間ニ爲シ得ヘキ者ニアラス假令ヒ敵ヲ尤モ有利ニ判斷シ九月一日中ニ全力ヲ上陸セシメ九月二日ヨリ東進ノ運動ヲ起スモノトスルモ其途中ニハ箱根山脈ノ大障礙アルヲ以テ馬入川ノ線ニ達スルハ早ヤクモ九月四日ナル

就クヘキモ  
ノナリ上陸  
スルニ從ヒ  
個々ノ前進  
運動チナス  
ハ各個擊破  
ヲ受クルノ  
基ニシテ原  
則外ナリ  
任務ニ就テ  
ノ判斷理由

ヘシ是レヲ以テ之レヲ見レハ我ハ九月三日マテハ完全ニ相摸平原ニ進出シ得ルノ公算アルヲ以テ此日マテハ給養衛生ノ顧慮ヲ主トシテ行軍ヲ規畫シ兵力ヲ貯養スルヲ要ス然レトモ敵狀ヲ速ニ確メ且ツ敵騎ヲ防止スル爲メニハ成シ得ル限り我騎兵ヲ速ニ敵方ニ派遣スルコト緊要ナリ  
我任務ハ守勢ナリ軍ノ相摸平原ニ進出スル迄ハ飽クマテ持久ノ策ヲ取り敵ヲ防止セサルヘカラス即チ之レカ爲メニハ地利ニ依頼シ得ヘキ地點ヲ探究シ防禦ノ策ヲ立ツルヲ要ス  
夫レ敵カ東京ニ侵入スルニ當リ障礙タルヘキモノハ箱根山脈アリ馬入川アリ敵ヲ防止スル爲メニハ箱根山脈ヲ扼スルニ如クハナシ然レトモ彼我ノ距離上此山脈ヲ扼スルコトハ到底出來ス然ラハ第二ノ馬入川ニ由テ敵ヲ防止セサルヘカラス然ルニ馬入川ニ敵カ前進スルニ



我兵力優勢  
ニシテ決戦  
ナシテハ伊  
場合ニハ伊  
勢原附近ハ  
側面陣地ハ  
大ニ戰界上  
ヨリ論スル  
モ利益ナシ  
モシテナシ  
シテ海軍ヲ  
常ニシテ戰  
ハシテ得ル  
ヘシテ與  
サレバ不利  
敵ヲ北ニ  
牽制シテ東  
進ヲ妨グル  
ナリ

當リ取ルヘキ道路ハ二條アリ曰ク東海道、曰ク其北方曾屋街道是レナ  
リ故ニ馬入川ヲ利用スルニ當リ顧慮スルノ方法亦タ二ツアリ即チ左  
ノ如シ

一、伊勢原附近ニ南面シテ側面陣地ヲ占メ馬入川ヲ渡河セントスル  
モノニ對シ北方ヨリ其側面ヲ制止ス而シテ退路ハ八王子方向ニ  
取ルコト

二、用田附近ニ準備陣ヲ占メ馬入川ノ渡河ヲ待チ其半渡ヲ擊ツ

第一ノ方法ハ枝隊カ馬入川右岸ノ地區ニアルモノナレハ後來軍カ馬  
入川ヲ超ヘ攻勢ヲ取ルニ當リテハ枝隊ノ掩護ニ由テ馬入川ノ渡河ハ  
頗ル容易ナリ然レトモ敵ガ優勢ニシテ二縱隊ヲ以テ曾屋及ヒ東海道  
ヨリ前進スル時ハ持久ノ戰鬥ヲ爲ス能ハス勢ヒ機ニ先タチ決戦ヲナ  
スノ餘義ナキニ至ルコトアルヘシ且ツ馬入川ヲ超ヘテ右岸ニ移ルニ

第二ノ方法  
ハ河川防禦  
ノ要領ニ從  
フ者ナリ第  
三篇河川戰  
闘ノ條ヲ參  
照スヘシ

ハ渡河ノ爲メ時日ヲ費シ或ハ其間ニハ敵ノ到着スルアルヤモ知レズ  
故ニ今ヨリ確實ニ此地區ヲ占領シ得ルコトノ確算ヲ立ツル能ハス

第二ノ方法ハ先ツ敵ハ架橋シテ渡河セサルヲ得サルノ不利ヲ與ヘ且  
ツ時日ヲ空費セシメ一旦渡河ノ準備ヲ終リ何レノ方向ヨリ決意渡河  
シ來ルアルモ其一方面ニ向ツテ敵ノ半渡ヲ擊ツノ利アリ然レモ後來  
軍ノ前進ヲ顧慮スルトキハ第二ノ方法ト反對ニシテ不利ナリ然レト  
モ目下我任務ハ寡兵ヲ以テ敵ヲ防止スルノ消極的ナルヲ以テ先ツ此  
第二ノ方法ハ採用スヘキ者ニシテ第一ノ方法ニ比スレハ比較的永ク  
敵ヲ防止シ得ヘシ

東京ヨリ用田附近ニ進出スルニハ大山街道、丸子街道、東海道ノ三道ア  
リ乃ハチ前ニ敵狀ヲ判斷セシ所ニ於テモ述ヘシ如ク馬入川左岸ノ地  
區ニ進出スル迄ハ兵力休養ヲ主トスルヲ可トスルヲ以テ成ルヘク行



軍ヲ容易ナラシムル爲メ行軍縱隊ヲ分割スルヲ可トス且ツ行軍縱隊  
ヲ分割スレハ齊頭面ヲ以テ同時ニ目標點ニ速ニ進出シ得ルノ利アリ  
乃ハチ行軍縱隊ヲ分割スルニ當リ前記道路ノ採用如何ヲ顧慮スヘキ  
ナリ丸子街道ハ道路頗ル不良ナルヲ以テ大部隊ニシテ數縱隊ニ分  
ツノ必要アルモ是レヲモ使用スルヲ要スレトモ枝隊ノ兵力ニテハ  
此道路ヲ使用セスニ縱隊ニ分テハ充分ナラン而シテ大山街道ハ東海  
道ヨリ劣等ニシテ且ツ多摩川ニハ橋梁ナキ故一部隊ヲ此道路ニ前進  
セシメ大部ハ東海道ヲ前進セシムルヲ可トス然レトモ相模平原ニ作  
戦スル爲メニハ後方連絡線ヲ此大山街道ニ取ルヲ要スルハ地形上自  
然ナリ蓋シ東海道南方ニ偏シ且ツ敵ガ海上ヲ制スル時ハ危険ナレハ  
ナリ之レカ爲メ大山街道上多摩川ニハ速ニ架橋シ置クヲ必要トス  
以上ノ理由ニ因ツテ九月一日午後三時ヨリ左ノ處置ヲナス

- 一、騎兵ハ直チニ獨立シテ酒匂川河孟ニ向ツテ前進セシム
- 二、歩兵第一聯隊及ヒ工兵ノ大部ハ大山街道ヲ前進シ三日午前中ニ  
用田附近ニ至ラシム
- 三、殘餘ハ東海道ヲ前進シ同日午前中ニ用田附近ニ至ラシム
- 四、大山街道上多摩川ニハ徵發材料ヲ以テ速ニ架橋セシム但シ急速  
ノ補助ニ供スル爲メ架橋縱列ヲ大山街道上ニ前進セシメ置クヲ  
要ス

### 第二問

九月一日正午十二時ニ於ケル情況判斷ニ基キ下ス  
ヘキ命令并ニ處置



九月一日正  
午十二時ニ  
於ケル情況  
判斷ニ基キ  
下スヘキ命  
令並ニ處置  
即チ敵ニ遠  
キ時ニ於ケ  
ル運動發記  
ニ關スルモ  
ノ

第一問ニ於テ研究シタル情況判斷ハ枝隊長カ爾後ノ作戰動作ヲ決定  
セントシ即チ適當ノ命令ヲ下シ適當ノ處置ヲ爲ス基礎タルモノニシ  
テ萬般ノ區署之レヨリ生スルナリ  
此際ニ於テ下スヘキ命令ハ前進ニ關スル行軍命令ナリ夫レ行軍ニモ  
種々アリ旅次行軍、戰備行軍、急行軍、強行軍、夜行軍等其行軍ノ種類目的  
ニ應シ命令事項ニ差異アルハ勿論ニシテ假令ハ敵ニ遠キ時ニ於ケ  
ル旅次行軍ノ如キハ畧ホ到着點ヲ豫定シテ指示スルヲ得ヘシト雖モ  
之レニ反シ敵ニ近キ時ニ於ケル戰備行軍ノ如キハ到着點ヲ豫定スル  
能ハサル如シ今本問ニ於テ研究スヘキ命令ハ敵ニ尤モ遠キ時ニ於ケ  
ル行軍命令ナリ

敵ニ遠ク警  
戒ノ願慮ナ  
キ時ニ於ケ  
ル軍隊區分

### 軍隊區分

#### 獨立騎兵

- 司令官少佐某
- 騎兵第一中隊(一小隊欠ク)
- 騎兵第二中隊(一小隊欠ク)

#### 右縱隊

- 司令官大佐某
- 步兵第一聯隊
- 騎兵第一中隊ノ一分隊



左縱隊

旅團司令部

步兵第二聯隊(第三大隊欠ク)

騎兵第一中隊ノ一小隊(一分隊欠ク)

野砲兵第四中隊

山砲兵第三大隊(第五第六中隊)

工兵第二中隊ノ一小隊

衛生隊二分一

二子村架橋隊

司令官工兵大尉某

工兵第一中隊

敵ニ尤モ遠  
ク警戒ノ願  
ニナキ時ニ

架橋縱列

輜重

步兵彈藥一縱列ト三分一

砲兵彈藥一縱列

野戰病院二個

糧食一縱列

技隊命令

九月一日正午十二時  
東京旅團司令部ニ於テ

一、敵ノ運送船數十隻ハ昨夜半ヨリ續々駿河灣ニ集合ス

二、技隊ハ用田附近ニ前進シ軍ノ相摸平原ニ進出スルヲ掩護セントス



三、獨立騎兵ハ午後三時出發明日中ニ相摸平原ニ進ミ曾屋、小田原方向ヲ搜索スヘシ

四、二子村架橋隊ハ午後三時出發二子村附近ニ於テ多摩川渡河ノ準備ヲナスヘシ

一時ノ爲メ架橋縱列ヲ使用スルハ妨ケナキモ成ルヘク徵發材料ヲ以テ軍橋ヲ架シ架橋終レハ速ニ用田ニ向ヒ前進スヘシ

五、爾他ノ諸隊ハ別紙行軍豫定表ニ準シ用田ニ向ヒ前進スヘシ

但シ左縱隊ノ行進順序ハ騎兵、歩兵、砲兵、衛生隊ノ順序トシ工兵小隊ハ砲兵ト同行スヘシ

本日左縱隊ノ先頭タル騎兵部隊ノ出發ハ午後三時三十分トス他隊ハ之レニ準スヘシ

六、余ハ左縱隊ト共ニ行進ス

少將 某

(此命令ハ複寫版ニテ印刷シテ各隊ニ交付ス)

左		右	獨立騎兵	部 隊	日 次
旅團司令部 (步兵第二聯隊 第三大隊缺ク)	品川	瀨田附近	午後三時出發	一	日
大	岡津上下	長津間	相摸平原ニ進出曾屋小田原方向 ノ搜索ニ任ス	二	日
柏尾附近	午前中ニ用田着			三	日
前 午					

枝隊行軍豫定表



旅次行軍チ  
ナスニ當リ  
爲ス可キ技  
隊長ノ處置

考 備	輜 重	縦 隊			
		衛生隊二分一	工兵第二中隊 ノ一小隊	野砲第四中隊 山砲第三大隊	騎兵第一中隊 ノ一小隊
九月一日午後三時ヨリ諸隊ハ運動ヲ起シ得 他隊ノ宿營地ヲ妨ケサル限リ附近ノ地ヲ廣ク利用スルヲ得 給養ハ宿舎給養トス 宿營ニ關スル精細ノ區署ハ先發官某(大山街道上)某(東海道上)ト協 議スルコト 大行李ハ各所屬隊ト共ニ前進セシム 別命ナケレハ日々ノ出發時刻ハ各隊ニ於テ適宜ニ決定スヘシ	東 京	間川品入斗不		森	
	川 崎 間	近 附 生 芝 谷 ケ 程		和 泉	
	午前中ニ先頭ヲ 以テ程ケ谷ヘ着	着 田 用 ニ 中			

枝隊長ガ九月一日午後三時迄ニ爲スヘキ處置ハ左ノ  
如クナルヘシ

- 一、前記ノ命令文案ヲ副官ヲシテ起草印刷セシメ之レヲ各隊ニ配布ス
- 二、物資ヲ豫メ準備シ行軍ヲ容易ナラシムル爲メ大山街道上及ヒ東海道上ニ設營先發官トシテ左ノ人員ヲ派遣ス

- 大山街道上ニ
  - 步兵中(少)尉 一名
  - 軍醫(書記) 一名
  - 軍吏(書記) 一名
  - 軍士卒 若干
- 東海道上ニ
  - 大(中)尉 一名
  - 軍醫 一名
  - 軍吏 一名
  - 軍士卒 若干

三、獨立騎兵隊長、右縦隊長及ヒ架橋隊長ヲ招致シ大概ノ作戰計畫ヲ



旅次行軍チ  
ナスニ當リ  
爲ス可キ技  
隊長ノ處置

考 備	輜	縦 隊			
		衛生隊二分一	工兵第二中隊 ノ一小隊	野砲第四中隊 山砲第三大隊	騎兵第一中隊 ノ一小隊
九月一日午後三時ヨリ諸隊ハ運動ヲ起シ得 他隊ノ宿營地ヲ妨ケサル限リ附近ノ地ヲ廣ク利用スルヲ得 給養ハ宿舎給養トス 宿營ニ關スル精細ノ區署ハ先發官某(大山街道上)某(東海道上)ト協 議スルコト 大行李ハ各所屬隊ト共ニ前進セシム 別命ナケレハ日々ノ出發時刻ハ各隊ニ於テ適宜ニ決定スヘシ	重	東	京	川神奈川 崎川 間	
	間川品入斗不			森	
	近附生芝谷ケ程			和 泉	
		午前中ニ先頭ヲ 以テ程ケ谷へ着			着 田 用 = 中

枝隊長ガ九月一日午後三時迄ニ爲スヘキ處置ハ左ノ  
如クナルヘシ

- 一、前記ノ命令文案ヲ副官ヲシテ起草印刷セシメ之レヲ各隊ニ配布ス
- 二、物資ヲ豫メ準備シ行軍ヲ容易ナラシムル爲メ大山街道上及ヒ東海道上ニ設營先發官トシテ左ノ人員ヲ派遣ス

大山街道上ニ……………  
 大(中)尉 一名  
 軍醫 一名  
 軍吏(書記) 一名  
 軍士卒 若干

東海道上ニ……………  
 大(中)尉 一名  
 軍醫 一名  
 軍吏 一名  
 軍士卒 若干

三、獨立騎兵隊長、右縦隊長及ヒ架橋隊長ヲ招致シ大概ノ作戰計畫ヲ



承知セシメ置ク

四、 服装行李其他萬般内務ニ關スル規定ヲ副官ヨリ各隊ニ命セシム

五、 諸準備終ラハ枝隊長カ施行シタル處置及ヒ命令ノ大要ヲ防禦總督ニ報告ス

以上ノ命令及ヒ處置ニ關シ若干ノ説明並ニ注意ヲ左ニ述ヘントス

- 一、 情况判斷ニ示ス如ク此場合ニハ敵ニ對シテノ顧慮ナキ故軍隊ハ旅次行軍ヲナサシメ成ル可ク給養ヲ主トシ兵力ノ休養ヲ主トスル目的ヲ以テ萬般ヲ規畫ス
- 二、 情况判斷ニモ示ス如ク縱隊ヲ分割シ大山街道、東海道ノ二道ヨリ前進セシメ行軍ヲ容易ナラシムルノ主旨ヲ發揚セシメン爲メニ

敵ニ違キ時  
即チ旅次行  
軍ヲ爲ス時  
ノ命令及ヒ  
處置ニ關ス  
ル説明並ニ  
注意

行軍豫定表  
ニ關スル

ハ枝隊長ハ成ルヘク干涉セス各隊長ヲシテ自由ニ出發投宿ヲナサシメ且ツ廣舍營ヲナス如ク規畫スルヲ要ス即チ此場合ニ於テハ行軍豫定表ヲ作り日々命令下達ノ煩ヲ省キ且ツ此豫定表ノ範圍内ニ於テ各隊長ニ自由ヲ與フル如クシタリ

三、 行軍豫定表ヲ作クルニハ沿道ノ宿舍力及ヒ物資ノ多寡ヲ顧慮シ同所ニ各種ノ部隊數回宿營スルコトナク平均ニ土地ノ宿營並ニ物資ヲ使用スルコトヲ勉メタリ例ヘハ第一日ニ大森ヲ宿營地トナシタル故第二日ハ此處ヲ避ケ輻重ヲシテ川崎以西ニ宿營セシムルカ如シ

四、 宿營地配當ヲ融通ノ付ク如ク廣範圍ヲ以テ定ムルコト例ヘハ神奈川川崎ト一地ヲ指示セス「神奈川ト川崎ノ間」ト云フ如ク指示ス殊ニ輻重ノ如キハ行軍長徑ニ從フテ宿泊セシムルヲ可



給養ニ關スル

五、

トスルガ故ニ通常先頭ト後尾ノ位置ヲ以テ示スモノトス  
兵隊ノ給養ハ宿舍給養ヲ最可トスルヲ以テ成ル可ク富饒ノ町村  
ヲ宿營地ニ充ツル如ク行軍ヲ配置スルコト  
且ツ町村吏ト協議シ豫メ宿營并ニ物資等ヲ準備スル爲メ設營先  
發官ヲ派遣ス

建制ヲ維持スル件

六、

設營先發官中ニ軍醫ヲ加ヘタルハ惡疫ノ有無、飲水ノ良否ヲ檢シ  
衛生上ノ豫防ヲナサン爲メナリ  
各部團隊ハ成ルヘク建制ヲ破ラス指揮命令ノ連繫ヲ便ナラシム  
ル爲メ他ニ必要ノナキ限リハ大山街道、東海道ノ兩道ニ分割スル  
部隊ヲ各兵種建制ノ團隊ヲ以テセリ  
假令ハ砲兵ハ東海道上ニ全部ヲ進メ、歩兵聯隊ハ分割セス全聯  
隊ヲ大山街道上ニ進マシムル如シ又輜重ノ如キモ未タ梯隊區分

騎兵ニ關スル件

七、

ノ必要ナキ故固有ノ建制ヲ以テ行軍セシムル如シ  
情況判斷ニ示ス如ク此場合ニ於テ騎兵ヲ速ニ前進セシムル必要  
アルヲ以テ直チニ獨立派遣セサルヘカラス而シテ騎兵ハ不羈獨  
立ナル丈ケソレ丈ケ動作ヲ敏活ナラシメ得ルモノナルユエ騎兵  
ニハ進路ヲ餘リニ詳細ニ指示セス唯タ目標ヲ示シ進路ハ大體ノ  
ミニ留メ以テ臨機獨斷ノ餘地アラシムルヲ要ス

命令文ニ關スル説明

八、

部下ニ大體メ敵狀ヲ知ラシムル爲メ命令文ノ第一項ヲ記スルニ  
當リ想定ニ示ス所ノ海岸監視哨ノ急報云々ハ部下ニ知ラシムル  
ノ必要ナク其情報ノ由テ來ル所ハ電信ニセヨ傳騎ニセヨ何ニセ  
ヨ部下ニ關係ナキ故簡單ヲ主トシ即チ命令文第一項ノ如ク記載  
セリ

九、

命令文第二項ハ枝隊カ運動ノ發起ニ當リ其行進目標並ニ任務ノ



大要ヲ示スモノナリ是レ不意ノ事變アルモ各隊長ハ此第二項ノ主旨ヲ標準トシテ臨機獨斷ノ處置ヲナスヘキナリ獨立騎兵ニ於テ特ニ然リ

## 十、

獨立騎兵カ相模平原ニ進出スルハ一時モ早キヲ希望スル所ナリ然レトモ騎兵ノ運動タル固ヨリ不測ニシテ精確ニ時間ヲ以テ規定スヘカラス否ナ此クスル時ハ反ツテ害アリ故ニ命令文第三項ノ如ク「明日中」ト命シ動作ノ餘地ヲ與ヘ置ケハ騎兵隊長ハ固ヨリ枝隊長ノ意圖ヲ知リアル故此範圍ニ於テ成ル可ク速ニ進出スルコトヲ勉ムナルヘシ

又敵カ前進スルニ當リテハ足柄街道或ハ箱根街道或ハ輕井澤街道等ノ隘路ヲ出テ、其主ナル行進方向ハ曾屋、小田原方向ニアルコト明ナリ是レ此方向ノ搜索ヲ命スル所以ナリ

## 十一、

架橋隊ハ明二日ニハ成ルヘク右縦隊ヲシテ軍橋ニ由テ渡河スルヲ得セシムルヲ要ス然レトモ架橋縦列ハ成ルヘク戰列隊ニ隨行スヘキノ性質ヲ有シ此クノ如キ場合ニ使用シテ戰列隊ト分離スル如キハ好マス殊ニ大山街道ハ後來連絡線タルノ顧慮アルヲ以テ成シ得ル限リ地方材料ヲ以テ永久ノ軍橋ヲ架スルヲ最可トス之レヲ爲サン爲メニ先ツ要スル顧慮ハ地方材料ノ有無ナリ到底明日右縦隊カ通過スル迄ニ完全ニ徵發材料ヲ以テ架橋シ得ル公算ナシ蓋シ之レ等ハ土民ヲ使役シ得ルノ便否、材料ノ多寡ニ關シテ左右セラル、者ナレハ萬全ノ爲メ架橋縦列ヲ附シ架橋隊長ノ臨機ノ處置ニ委シ若シ徵發材料カ少々不足ナル爲メ河川ノ全幅ニ架橋スル能ハサル場合ニハ架橋縦列ヲ用ヒテ先ツ右縦隊ヲ通過セシメ速ニ徵發材料ヲ尙ホ近傍ヨリ徵集シテ先キニ使用シ



タル架橋縦列ト交換スルカ或ハ又軍橋ノ完成甚シク遅延スル如キ場合ニハ一時門橋ヲ構成シテ渡河ニ供スルカ等ノ處置ヲナサシメ架橋縦列ハ用務終レハ速ニ戰列隊ニ追及セシム以上ノ主意ハ即チ命令文第四項ノ生スル所以ナリ

出發ニ關スル

十二、命令文第五項ノ如ク命シ置ケハ異狀ナキ限り日々命令ヲ下サ、ルモ各隊長ハ豫定表ノ範圍ニ於テ適當ニ行軍ヲ規定シ目的地ニ集合スヘキナリ但シ左縦隊ハ各兵種混合シアルヲ以テ其行進順序ヲ規定シ且ツ第一日ハ同衛戍地ヨリ諸隊出發スルノ故ヲ以テ混淆ヲ避ケ出發後續ノ標準ヲ各隊ニ與フル爲メ先頭部隊即チ騎兵ノ出發時刻ヲ規定セリ次日ヨリハ行軍宿泊ニ由テ自ラ順序立チアル故更ニ之レヲ羈束スルハ不可ナリ

十三、右縦隊及ヒ左縦隊ニ附スヘキ騎兵總計一小隊ヲ取ルニ第二中

隊ヨリ取ル時ハ元來第二中隊ハ一小隊欠キアルヲ以テ合計二小队ヲ欠ク譯ナリ即チ中隊長ハ残り二小队ヲ指揮スルニ至ル是レ面白カラス之レニ反シ右縦隊並ニ左縦隊ニ付スヘキ騎兵一小隊ヲ第一中隊ヨリ取ル時ハ第一第二中隊長共ニ三小队ヲ指揮シ得ル譯ナリ是レ建制上前法ニ比スレハ良ナリ

十四、右縦隊ニ附セシ騎兵一分隊ハ傳令用或ハ時機ニヨリ若干ノ斥候ニ供セン爲メナリ

十五、左縦隊ニ附セシ騎兵一小隊(一分隊欠ク)ハ傳令用並ニ時機ニヨリ直チニ尖兵ニ供セン爲メナリ

十六、道路ノ景況ヨリ云ヘハ東海道ノ如キ良路ニ野砲ヲ進メ大山街道ニ山砲ヲ進ムレハ兩縦隊ノ兵數モ平均ヲ得テ大ニ可ナル如キモ成ルヘク建制ヲ分タサル爲メ且ツ多摩川ノ軍橋カ速カニ完成



セサル時ハ馬匹ノ渡河ニ多時間ヲ費スノ恐レアルヲ以テ山野砲  
トモ東海道ニ進ムルコトトナセリ

十七、工兵一小隊ヲ左縦隊ニ附セシハ砲車ノ爲メ道路ノ修理或ハ軍  
隊通過ノ爲メ破損セル點ヲ後來輜重ノ通過ノ爲メニ修理スル等  
ノ用ニ供セン爲ナリ

梯隊區分ノ  
十八、輜重梯隊ノ梯隊區分ヲナサ、ルハ前ニモ一言シ置キタル如ク  
日前ニ戰鬪ヲ期セス梯隊區分ノ必要ナケレハナリ夫レ輜重ノ梯  
隊區分ハ尙ホ軍隊區分ト同様ニシテ此區分ヲナス爲メニハ勢ヒ  
建制ヲ割テ一時ノ編合ヲナス譯ナレハナリ是レ情況許ス限リハ  
梯隊區分ヲナス固有ノ命令連繫下ニアラシムルヲ可トスル所  
以ナリ

九月一日正  
午十二時ノ  
支隊命令ニ  
基キ各隊長  
ノ處置

第三問

九月一日正午十二時ノ枝隊命令ニ基キ各隊長ハ如  
何ニナスヤ

獨立騎兵隊長 ハ速ニ會屋、小田原方向ヲ搜索センコトハ須臾モ  
念頭ヲ去ルヘカラスト雖モ其他枝隊命令ニ接シテ自己カ任務ヲ果サ  
ン爲メニハ如何ニスヘキヤ、如何ナル注意ヲ要スルヤ等種々ノ考慮ヲ  
要スルナリ抑モ騎兵ハ軍ノ眼目ニシテ騎兵ノ活動宜シキヲ得サル時  
ハ軍ハ常ニ暗黒中ニアリ之レニ反シ騎兵ノ活動其宜シキヲ得ハ小數  
騎兵ト雖モ數倍ノ歩兵前衛ヲ以テ警戒スルニ勝ルモノタリ搜索ノ周  
到ナルハ警戒ノ至レル者ナリトハ實ニ戰術ノ一大原則ナリ獨立騎兵  
隊長ノ責任重キ此クノ如シ獨立騎兵隊長ハ枝隊長ノ心ヲ以テ己レノ



心トシ枝隊長ノ意圖ヲ満足セシメサル可カラス是レ獨立騎兵隊  
 長ハ概ネ出發前枝隊長ノ計畫意圖ヲ豫メ承知シテ任務ニ赴ク所以ナ  
 リ  
 今、ヤ、獨立騎兵隊長カ自己ノ任務ヲ果サン爲メ考慮スヘキ件左ノ如シ  
 一、曾屋小田原方向ノ搜索ヲ迅速ナラシムル方法  
 二、速ニ全力ヲ以テ相摸平原ニ進出スルノ方法  
 三、枝隊ノ前進ヲ顧慮シ成ルヘク速カニ道路偵察ヲナスノ方法  
 四、前途遠キ故成ル可ク人馬ノ持久力ヲ保持スルコト  
 五、兵力ヲ分散セサルコト  
 右ノ項目ニ就テ熟考スルトキハ彼此其要求ヲ充タスニ困難ニシテ第  
 一、第二、第三ト第四、第五項ハ全ク正反對ノ性能ナリ假令ヘハ第一項ノ  
 目的ヲ達センニハ數多ノ斥候ヲ尤モ迅速ニ急行セシムルニアル然ル

速ニ曾屋小  
 田原方向ヲ  
 搜索スルノ  
 目的ヲ達ス  
 ル爲メノ研  
 究

將校斥候ヲ  
 用ユル時機

時ハ第四、第五項ニ反スルカ如シ故ニ此場合ニ於テハ折中斟酌其尤モ  
 比較的利益アル方法ニ從ヒテ爾後ノ處置ヲ決セサルヘカラス  
 之レヲ研究スルニ第一項ノ目的ヲ達センニハ撰拔セル將校斥候ヲ以  
 テ之レニ任スルヲ可トス抑モ將校斥候ハ騎兵隊ノ活動力ヲ減殺スル  
 コト並ニ又新ニ斥候ヲ差遣スルノ必要ヲ生シタル時ニ於テ將校ノ缺  
 乏ヲ訴フルトノ顧慮トニ由テ紊リニ差遣スヘキモノニアラスト雖モ  
 此場合コソ實ニ何ヲ措テモ第一ニ將校斥候ヲ出スヘキ時機ナリ蓋シ  
 將校斥候ハ寡ヲ以テ機敏ニ動作シ運動迅速且ツ効力ハ騎卒ノミヨリ  
 ナル斥候ノ十數倍ニ値スレハナリ殊ニ將校斥候ノ特所ハ將校騎術ニ  
 長シ良馬ヲ有スル騎卒ヲ伴フトキハ馬匹ノ持久力ヲ節度シ適當ノ時  
 機ニ最大馬力ノ効現ヲ呈スルヲ得ルニアリ斥候ニ任スルモハ馬力  
 ミナル程効力多シ何トナスレハ如何ナル好情報ヲ得ル  
 モ得サルモ亦之レヲ傳達スルモ皆馬力ニアレハナリ



問 然ラハ會屋、小田原方向ニ使用スル將校斥候ハ幾組ヲ要シ又幾許ノ人馬數ヲ要スルヤ

答 會屋ト小田原トノ二方向ハ格別遠大ノ離隔ニモアラサルヲ以テ將校ノ數ヲ減シ騎兵隊ノ活動力ヲ減セサルノ主旨ヨリ一組ノ將校斥候ニテ可ナラン即チ一將校ニ下士卒若干名ヲ附シ先發急行セシメ以テ會屋、小田原方向ノ搜索ヲ一任シ要スレハ此將校斥候中ヨリ更ニ下士卒斥候ヲ會屋或ハ小田原ノ何レカ一方向ニ出シ將校自ラハ他ノ一方向ヲ搜索スル如キ處置ヲ此將校ニ一任スルヲ可トス又將校斥候ノ兵力ハ稍ヤ大ナルヲ要スヘシ但シ此兵力ハ悉ク搜索ニ供スルニ非ラス遞騎線用ナリ抑モ將校斥候ノ性質ヨリ云ヘハ成ルヘク小數ノ兵ヲ以テ運動ノ輕便ナルヲ主トスルヲ以テ將校斥候自ラハ多數ヲ要セス前陳ノ如ク一方向ニ下士卒斥候ヲ派遣スル時ノ場合ヲ顧

慮シ之レニ要スル兵員ヲ附加シ置ケハ足レリ然レトモ將校斥候ハ遠ク先發スルモノナル故其得タル情報ヲ速ニ後方ニ送クル爲メ遞騎線ヲ必要トス之レニ要スル兵員ヲ隨伴セシムルハ目下甚タ緊要ナリ而シテ此遞騎線ニ用ヒタル騎兵ハ後來獨立騎兵本隊ノ來着ヲ待ツテ之レニ合スヘキナリ  
乃ハ、チ、此、將、校、斥、候、ハ、左、ノ、人、員、ヨ、リ、ナ、ル、モ、ハ、ト、ス、

- 將校 一名
  - 下士 一名
  - 上等兵 三名
  - 騎卒 十五名
- 計二十騎

問 右將校斥候ニ要スル人馬ハ何レノ隊ヨリ取ルヤ  
答 將校斥候ハ前陳ノ如ク良騎卒良馬ヲ要スル故分隊トカ小隊トカ



云フ如ク建制ニテ取ラス第二中隊中ヨリ人馬共ニ撰抜シテ編成ス

獨立騎兵全  
力ヲ以テ速  
ニ相摸平原  
ニ進出スル  
爲メノ研究

第二項ノ目的ヲ達センハ一日ノ行軍行程ヲ決定シ此行軍行程ニ應シ歩度ノ配合及ヒ其他行軍方法ヲ適當ニ撰擇セサル可カラス今之レヲ研究スルニ東京ヨリ和泉附近ニ至ル里程ハ圖上ニテ計算スルモ的十一里ナリ實際ニ於テハ道路ノ屈曲等ノ爲メ更ニ大里程トナルヘシ而シテ九月一日ハ午後三時ニ出發スルモノトセハ日没マテ約三時間ヲ餘スノミ此ニ於テ明日午前中ニ少クモ和泉附近ニ達シ尙ホ進ンテ此日中ニ相摸平原ノ搜索ヲナサン爲メニハ稍々急行軍ヲ施行セサルヘカラス此行程ヲ日次ニ配布スレハ左ノ如シ

九月一日 東京ヨリ川崎ニ至ル

約二十吉羅米

九月二日 川崎ヨリ戸田附近ニ至ル 約四十吉羅米

右ノ行程ヲ前進シ且ツ九月二日午後ニ於テハ搜索動作繁忙トナリ從ツテ馬力ヲ要スルコト大ナルヘシ然ラハ歩度ハ如何ナル配合ヲ取ルヘキヤ四分一ノ歩度即チ十五分並歩五分早蹻ノ混合ヲ以テスレハ左ノ如クナルヘシ

騎兵歩度ハ  
配合

四十分	並蹻	行進距離三千六百米(一分、九十米)
一時間中	十分 早蹻	行進距離二千百米(一分、二百十米)
十分	休憩	

行進距離合計 五千七百米

又三分一ノ歩度即チ十分並蹻五分早蹻ノ混合ヲ以テスレハ左ノ如クナルヘシ

(三十五分 並蹻 行進距離三千百五十米(一分、九十米))



丁時間中十五分 早勝 行進距離三千四百五十米(一分、二百十米)  
十分 休憩

行進距離 合計六千六百米

以上歩度配合ハ行進距離ノ關係ヲ見ルニ馬匹ノ爲メニハ四分一步度ヲ以テ最可トスレトモ九月一日ハ日没マテ時間ノ餘裕ヲ存セサル故四分一ノ歩度ヲ用ユル時ハ遂ニ夜ニ至リ宿營ニ就クニ至ルヘシ是人馬ノ爲メニ宜シカラス延ヒテ明日ノ行軍ニ關係ヲ及ホスヲ以テ投宿ハ成ルヘク日没前ニナサ、ル可カラス是レカ爲メニハ三分一步度ヲ採用セサルヘカラス抑々此三分一步度ハ長時間ノ行軍ニ於テハ大ニ馬匹ヲ疲勞セシムレトモ九月一日ニ於テハ行軍時間短キ故ニ此歩度ヲ以テ行進シ却ツテ投宿ヲ早カラシムルヲ可トセン  
又九月二日ハ行軍行程モ長ク且ツ和泉以西ニ進出後ハ戦闘動作ヲナ

スノ必要アルヤモ知レサルヲ以テ成ルヘク馬力ヲ保存シ置カサルヘカラス故ニ出發ノ時ヨリ終始三分一步度ヲ取ル能ハス發程後若干時間ハ四分一步度ヲ取り漸次三分一步度ニ増加シ行軍ヲ速カナラシムルヲ要ス

右説ク所ノ外行軍ヲ容易ナラシムル爲メ成シ得ル限りノ便宜ヲ各隊ニ與フルヲ要ス夫レ相摸平原ニ進出スレハ戦闘動作ヲナスノ必要アルヤモ知レズ從ツテ獨立騎兵隊長カ部下全力ヲ手中ニ握握シアルノ必要アレトモ目下ノ情況上和泉附近ニ至ルマテハ敵ト衝突スルノ患モナク且ツ既ニ將校斥候モ派遣シアルコトナレハ東京ヨリ和泉ニ至ルマテノ行軍ハ警戒行軍ノ必要ナク專ラ便宜ヲ主トシ中隊各個ノ旅次行軍ヲ以テスルヲ可トセン和泉附近ニ至リ始メテ警戒行軍ニ移リ相摸平原ノ搜索ヲナシ且ツ少クモ二日中ニ馬入川ノ線ヲ占領スルノ



枝隊行進ノ爲メ速ニ道路偵察ヲ爲ス爲メノ研究

決心ヲ以テ動作スルヲ要ス

第三項ノ目的ヲ達スル爲メハ先發スル將校斥候ニ兼任セシムレハ速ニ報告ヲ得ルノ便アリ然レトモ此ノ如クスル時ハ將校斥候ノ運動ヲ羈束シ主務ヲ遅緩セシムルノ患アリ又元來此場合ニ於ケル道路偵察ハ或ル特別目的ノ爲メニ爲スモノニアラス唯タ枝隊ノ行進ニ當リ不意ニ障礙ニ遭遇シ行進ヲ遲滯セシムルコトナキ爲メニ過キサルフ以テ左ノ如ク各中隊ヲシテ分任セシムルヲ可トス

東京ヨリ神奈川ニ至ル道路偵察 騎兵第一中隊

神奈川ヨリ和泉ニ至ル道路偵察 騎兵第二中隊

此クノ如クスル時ハ各中隊ハ中隊ノ行進ト同時ニ一將校(下士)ニ命シ其道路ノ景況ヲ偵察報告セシムルナラン而シテ枝隊ノ行進ノ爲メ大

ニ影響スル異狀ノ件アレハ其都度之レヲ枝隊長ニ報告ス假令ハ橋梁ノ破壊等ノ爲メ修理ヲ要スル場合等ノ如シ

人馬ノ持久力ヲ保有スル爲メノ研究  
兵力ノ分散ヲ妨ク爲メノ研究

第四、第五項ハ目的ハ前陳ノ方法ニ從ヘハ概ネ達成セラレヘク即ハ和泉ニ進出スルマテハ旅次行軍ニ由テ前記ノ如ク歩度ヲ配合シ和泉以西ニ進出スルニ至リ貯蓄シタル全力ヲ捧ケテ任務服用ニ供ス又和泉マデハ唯ダ先發セル將校斥候ヲ除ク外ハ概ネ集團シアルヲ以テ獨立騎兵隊長ハ何時ニテモ全力ヲ掌握使用シ得ヘシ

前述ノ要旨ニ從ヒ九月一日午後三時迄ニ於ケル獨立騎兵隊長ノ處置ヲ列記スレハ左ノ如シ

(1) 九月一日午後三時騎兵第一中隊(一小隊缺ク)騎兵第

九月一日午後三時迄ニ



於ケル獨立  
騎兵隊長ノ  
處置並ニ命  
令

二中隊(一小隊缺ク)ハ出發準備ヲ整ヘ舍前ニ整列セ  
シム

(2) 服裝、馬裝、武器等ノ検査ヲナス殊ニ蹄鐵ノ検査ヲ必  
要トス

(乘馬兵ニ在ツテハ出發ノトキ馬裝ノ検査ハ尤モ必要ナルモノ  
ニシテ馬裝ノ可否ハ大ニ行軍力ヲ左右ス)

(3) 検査終レハ左ノ命令ヲ口達ス

### 獨立騎兵命令

一、敵ノ運送船數十艘昨夜半ヨリ續々駿河灣ニ集合ス  
枝隊ハ明後三日午前中ニ用田附近ニ前進スル筈ナリ

明日ニ係ル  
ヲハ敵狀ニ  
由テ如何ニ  
變化スルヤ  
モ知レス故  
ニ獨立騎兵  
隊長ノ考案  
ハ前陳ノ如  
ク既ニ明日  
ニ係ハルコ  
トマテ豫定  
シアレトモ  
各中隊ニハ  
先ツ本日ノ  
宿營地ニ至  
ルコト丈チ

二、獨立騎兵ハ明日中ニ厚木平原ニ進出シ會屋小田原方向ヲ搜索スル  
目的ヲ以テ本日川崎附近ニ前進セントス

三、中尉某ハ第二中隊ヨリ左ノ人馬ヲ撰拔シ小田原會屋方向ノ搜索ニ  
任スヘシ詳細ハ後ニ訓令ス

下士	一名
上等兵	三名
騎卒	十五騎

四、第一、第二中隊ハ以上ノ順序以テ各個ニ旅次行軍ヲ以テ川崎ニ前進  
スヘシ

五、第一中隊ハ行軍中特ニ將校(下士)ニ命シ本日行進路ノ道路偵察ヲ爲  
サシムヘシ

六、大行李ハ枝隊大行李長ノ指揮ニ屬シ枝隊ノ大行李ト共ニ前進スヘ



命シ更ニ今夜ニ於テ明日ニ係ルコトヲ命ス

シ

七、余ハ第一中隊ト共ニ行止ス

騎兵少佐某

將校斥候ニ與フル訓令

各中隊長へ左ノ注意ヲ與フ

○本日ハ投宿ヲ速カナラシムル目的ヲ以テ概ネ三分ノ一ノ步度ヲ採用サレンコトヲ欲ス

○道路偵察ノ報告ハ今夜ノ宿營地ニ於テ受領ス

將校斥候ニ與フル訓令（口達）

一、敵狀ハ前命令ニテ述ヘタル通り

二、枝隊ハ主力ヲ以テ東海道上ヲ、一部ヲ以テ大山街道上ヲ前進シ九月

三日午前中ニ用田附近へ進出スル筈ナリ

三、予ハ第一中隊第二中隊ヲ帥ヒ本日川崎附近ニ宿營シ明日午前中ニハ和泉附近ニ進出シ敵狀ニ由テ爾後相摸平原搜索ノ方法ヲ定メントス

四、貴官ハ成ル可ク速ニ前進シ會屋、小田原方向ヲ搜索スヘシ殊ニ予カ和泉附近ニ進出スルマテニ馬入川ノ景況并ニ馬入川ノ線附近ニ敵ノ在否ヲ報告セラル、ハ余ノ尤モ希望スル所ナリ之レカ爲メ必要ニ應シテ遞騎ヲ設ケ瞬時モ報告ヲ迅速ナラシムルコトヲ勉ムヘシ

騎兵少佐某

五、予ハ本日川崎ニ至ル  
(4) 將校一名、各中隊給養軍曹并ニ騎卒若干ヲ以テ設營隊ヲ編成シ直ニ川崎ニ向ツテ出發セシム

將校斥候へ獨斷專行ノ場合多キヲ以テ精細ニ目的意圖ヲ示シ獨斷ノ標準トナサシムルヲ要ス



架橋隊長 ハ速ニ多摩川ニ架橋シ明日通過スヘキ右縦隊ノ渡河ニ  
 供スルコトヲ勉メサルヘカラス殊ニ徵發材料ヲ以テ此急速ヲ要スル  
 架橋ヲ爲サンコトハ實ニ困難ナル事業ナリ故ニ目下架橋隊長トシテ  
 豫メ參畫スヘキ考案ハ左ノ三種ニ外ナラサルヘシ

- 一、成シ得ル限り材料ノ徵集、架橋ノ準備ヲ迅速ナラシメ徹夜ヲ以テ  
 スルトモ架橋ヲ急クコト
- 二、徵集シ得タル徵發材料ヲ以テ軍橋ノ大部分ヲ完成シ得ルモ其ノ  
 一部ノ材料不足スル時ハ縦列材料ヲ以テ之レヲ補フコト
- 三、到底今夜中ニ架橋ノ見込ナキ時ハ門橋ヲ造リ右縦隊ノ渡河ニ供  
 スルコト

右ニ就キ尤モ困難ヲ感スルハ第一項ノ條件ナリ材料ノ徵集ハ先發官

午後三時以  
 前ニ於ケル  
 架橋隊長ハ  
 處置

ヲシテ地方吏ト協商シ且ツ地方人夫ヲ使役スルノ外ナカルヘシ又架  
 橋ノ準備ハ第一ニ架橋點ノ偵察ナリ架橋隊到着迄テニ此偵察ヲ終リ  
 アレハ大ニ架橋迅速ナラシムルヲ得ヘシ  
 乃ハ九月一日午後三時以前ニ於ケル架橋隊長ハ處置ハ左ハ如クナ  
 ルヘシ

- 一、材料掛トシテ將校一名ヲ先發セシメ地方吏ト協議シ料材並ニ要  
 スレハ人夫等ノ徵集ニ關スルコトヲ管掌セシム
- 二、偵察將校一名ヲ先發セシメ架橋點ノ偵察ヲナサシム
- 三、架橋縦列ニハ九月一日午後三時出發工兵第一中隊ニ跟隨スヘキ  
 コトヲ命ス
- 四、工兵第一中隊ハ午後二時四十分集合ヲ命ス
- 五、大行李ハ午後三時ヨリ集合、架橋縦列ニ續行セシム



午後三時以  
前ニ於ケル  
右縦隊長ノ  
處置

右縦隊長 ハ未タ任務モナク唯タ行軍豫定表ニ準シ旅次行軍ヲナ  
スノミナレハ別ニ深キ考慮並ニ錯多ナル處置ヲナスニモ及ハス唯タ  
注意スヘキハ行軍ヲ容易ナラシムルト宿營ノ便ヲ計ルトニアリ又出  
發時刻ノ如キハ架橋隊ノ行進ヲ成ル可ク妨ケス架橋隊ヲシテ迅速容  
易ニ行進セシムル如ク規定スルヲ可トス但シ此願慮ヲ以テ出發時刻  
ヲ規定スル時ハ或ハ夜ニ入り投營スルノ弊ナキニモアラサレトモ本  
日ハ行程モ大距離ト云フ譯ニアラス宿營ノ準備サヘ整頓シアレハ他  
ノ乘馬兵ノ如キ弊害ハナク歩兵ニ於テハ大ナル支障アラサルヘシ  
乃ハチ九月一日午後三時以前ニ於ケル右縦隊長ノ處置ハ左ノ如クナ  
ルヘシ

一、左ノ設營隊ヲ先發セシメ宿營ノ配布並ニ諸準備ヲナサシム

聯隊副官 一名

各大隊ヨリ將校一名

各中隊ヨリ下士一名兵卒四名

聯隊副官ニハ成ル可ク廣キ舍營ヲ爲シ得ル如ク諸村落ヲ利用スル  
コトヲ訓令ス

二、中隊各個ノ旅次行軍ヲナサシム其行進ヲ衝突セシメサル爲メ左  
ノ如ク規定ス

第一大隊ハ午後三時四十分ヨリ全四時二十分ノ間ニ出發

第二大隊ハ午後四時三十分ヨリ全五時十分ノ間ニ出發

第三大隊ハ午後五時二十分ヨリ全六時ノ間ニ出發

右ノ時間ニ於テ各大隊長ヲシテ適宜各中隊及ヒ大行李ノ出發ヲ規  
定セシム

設營隊ノ編  
成



午後三時以  
前ニ於ケル  
左縦隊諸隊  
長ノ處置

九月一日午  
後九時ニ於  
ケル情況

三、夜間ニ入ルモ行進ヲ便ナラシムル爲メ地方吏ニ交渉シ沿道民家  
及ヒ必要ノ場所ニ點燈セシム  
左縦隊ノ諸隊ニ於テモ亦タ右縦隊ト同シク未タ一定ノ任務ニ服スル  
ニアラス唯タ行軍豫定表ニ準シ行軍スルニ過キス其行軍ヲ容易ナラ  
シメ宿營ノ便ヲ謀ル等ノ爲メ各隊ヨリ設營隊ヲ先發セシメ又小單位  
ヲ以テ各個ニ旅次行軍ヲナサシムル等其處置概ネ右縦隊ニ準ス

●九月一日午後九時ニ於ケル情況

一、諸隊ハ豫定ノ如ク行軍ヲナシ諸般ノ準備ハ地方  
吏ノ盡力ニ由テ軍隊ハ各豫定地ニ於テ安樂ニ舍  
營セリ

二、二子村架橋隊ハ地方吏ト先發官トノ盡力ニ由リ  
橋礎構築ヲ終リ徵發材料ハ現在ニ於テ中等ノ舟  
八隻及ヒ之レニ相應スル桁板等ノ諸材料收集整  
備セラレアリ明日午前中ニハ全河幅ニ架橋スル  
ニ充分ナル材料徵收セラル、筈ナリ  
多摩川ノ流速ハ一米突以下ニシテ河幅約百米突  
ナリ

問 架橋隊長ハ如何ナル處置ヲナスヤ

答 徵發材料ヲ以テ明日右縦隊ノ渡河スル迄ニ軍橋ヲ架スル見込ナ  
シ又架橋縦列ヲ用ヒテ一時架橋シ明日ニ至リ更ニ之レヲ撤シテ



門橋ヲ以テ  
スル渡河ノ  
時間  
流速一米以  
下ナル故流  
速ヲ利用ス

問 答

徵發材料ト換ユル如キハ徒勞ニ屬シ且ツ架橋縱列ノ戰列隊へ追及スルヲ遲緩ナラシム故ニ現在徵收シアル徵發材料ト架橋縱列ノ一部トヲ使用シ二舟ヨリナル門橋九個ヲ構成シ明朝右縱隊渡河ニ當リテハ各大隊ニ三個ヲ供ス

此クノ如クスルトキハ右縱隊ヲ比較的速ニ渡河セシメ且ツ明朝ヨリハ縱列材料ヲ以テセル軍橋ト架ケ換ヘヲナス等ノ煩ナク直チニ徵發材料ヲ以テ續々架橋ヲ爲シ得ヘク架橋縱列ハ右縱隊ニ續テ渡河シ速ニ追及シ得ル等ノ利アリ

右ノ如ク河幅百米ノ渡過ニ當リ一大隊ニ付キ二舟ヨリナル門橋三個ヲ使用シ漕渡スルトキハ一大隊ノ渡河時間幾許ナルヤ

此計算ヲ爲スニハ左ノ標準ニ依ル

一門橋ニ積載ス可キ人馬材料ノ數ハ左ノ如クナルモノトス

ル能ハス人  
力ニ由テ漕  
渡スルノ外  
ナシ

步兵 二十八人

乘馬(馬卒共) 四頭

輜重駄馬(輪卒共) 四頭

一馬匹二輪車 四輛

漕渡ニ要スル往復一回(乗卸シ共)ノ平均時間ヲ人員ハ十分馬匹並ニ車輛十五分トス

右ノ標準ニ依リ一個ノ門橋ヲ以テスル渡河時間ハ左ノ如シ

步兵一大隊 八時五十分

步兵一大隊ノ大行李 二時四十五分

工兵一中隊 二時三十五分

工兵一中隊ノ大行李 一時十五分

架橋縱列 三十五時間



今多摩川渡河ニ當リテハ各大隊ニ付キ門橋三個ヲ使用スル故ヘ  
右比例ニ依テ計算スルコト左ノ如シ

歩兵一大隊

約三時間

歩兵一大隊ノ大行李

約一時間

合計

約四時間

軍橋一橋節ノ架設ニ要スル時間

右ノ如ク計算スルトキハ架橋隊ニ屬スル工兵中隊及架橋縦列ノ渡河時間モ知リ得ラルヘシ然レトモ架橋隊ノ渡河スル時期ニハ多分徵發材料ヲ以テスル軍橋ノ便ニ依リ得ラルヘキヲ以テ茲ニ計算ヲ畧ス

問 材料ヲ整頓シアルトキ縦列材料ヲ以テスル軍橋一橋節ノ架設ニ要スル時間幾許ナルヤ

答 河川ノ景況殊ニ流速ニ關係シテ差異アレトモ流速一米突前後ノモノニ在リテハ晝間ハ平均約五分乃至六分トス、夜間ハ大概此ノ

二倍ト概算ス  
徵發材料ヲ以テスルトキハ材料ノ種類ニ差異アルヲ以テ之レヲ一定シ難シト雖トモ大概ネ前記ノ標準ヲ以テ斟酌スレハ可ナリ  
獨立騎兵隊長ハ明日ニ關シ處置スル所アルヤ否ヤ  
未タ別ニ敵狀ニ就テ得ル所ナキヲ以テ前決心ト異ナルナク以前ノ決心通り明日ハ運動セントス是レカ爲メ左ノ要旨ニ基ク命令ヲ下ス

一、明日ハ第一中隊ヲ先頭トシ約千米突ノ距離ヲ以テ第二中隊ヲ跟隨セシムルコト

二、第一中隊ノ出發ヲ午前六時トス

三、獨立騎兵ノ隘路進出掩護ノ爲メ且ツ前方搜索ノ爲メ第一中隊ヨリ左ノ三方向ニ各下士斥候ヲ派遣ス

乘馬隊ノ出發ハ成ルヘク拂曉後一時間ヨリ早



- (イ) 上和田ヲ經テ厚木方向
- (ロ) 長後ヲ經テ戸田方向
- (ハ) 藤澤ヲ經テ馬入方向

四、第一中隊ヲシテ神奈川マテ、第二中隊ヲシテ神奈川ヨリ和泉マテノ道路偵察ヲナサシム(之レヨリ以東即チ用田方向ノ道路偵察ハ和泉ニ至リ更ニ便宜ノ部隊ニ任命ス)  
右ノ如ク處置ヲ爲シ無事和泉ニ至レハ戰備行軍ニ移ル豫定ナリ

作戰九月二日

●九月二日ニ於ケル情況

獨立騎兵隊長ハ午前十時岡津東方ニ於テ左ノ情報ニ

接ス

將校斥候報告

九月二日午期八時二十分  
戸田ニ於テ

- 一、敵ニ就テ未タ見ル所ナシ
- 土人ノ風聞ニヨレハ熱海附近ニハ敵ノ騎兵アリト云フ
- 二、馬入川ハ大ニ減水シ戸田、田村附近ニハ渡渉場アリ
- 三、小官ハ下士斥候ヲ會屋方向ニ派遣シ殘餘ヲ帥ヒテ小田原ニ前進  
セントス

將校斥候長某署名

右ノ報告ニ於テ第一項ハ野外要務令第十四ニ於テ(某地方ニ於テ未ダ敵兵ヲ發見セサル)ヲ知ルモ亦タ指揮官ノ爲メニ往々緊要トナスヲアリト云ヘル原則ノ適例ナリ殊ニ此場合ニ於テ敵ノ有無ヲ速ニ報告スルハ缺テ受ケシ訓令ニ由テモ實ニ必要ナルコト明カナリ



問 獨立騎兵隊長ハ何カ處置アリヤ

答 處置ナシ蓋シ未タ前決心ヲ變スル程ノ價值ナケレハナリ

午前十時半獨立騎兵隊長ハ和泉ニ達シ左ノ情報ニ接ス

●厚木、戸田、馬入ノ各方向ニ派遣シタル下士斥候報告ノ要旨左ノ如シ

- 一、厚木ニハ橋梁存在スルモ野砲通過ニ適セス
- 二、岡田、戸田、田村、四ノ宮ハ各兵種ノ渡渉ニ妨ケナシ
- 三、馬入ノ橋梁ハ諸兵種ノ通過ニ妨ケナシ
- 四、各斥候ハ馬入川ノ線ニ停止シ後命ヲ待ツ

問 獨立騎兵隊長ハ何カ處置アリヤ  
答 有リ

獨立騎兵隊長ハ第一ノ豫定目的地ニ達シ此處ヨリ戰備行軍ニ移ルノ豫定ナリシガ今マテ得タル情報ニ由テ見レハ馬入川左岸ニハ未タ敵兵ナキコト確實ニシテ又土人ノ風聞ニ過キサル所ノ敵騎兵ノ所在地ト雖モ未タ尙遠方ナリ且ツ此方向ニハ將校斥候ガ前進シツ、アリ故ニ行進ヲ速カナラシムルト人馬ノ持久力ヲ貯有スルトノ主旨ニ由テ馬入川ノ線マテハ未タ警戒行軍ヲ取ルノ必要ナク尙ホ續テ現時ノ儘行進ヲ繼續スルニ決ス

之レカ爲メ左ノ處置ヲナス

- 一、各中隊ニハ尙ホ續テ戸田ニ向テ前進スヘキコトヲ命ス
- 二、第二中隊ヲシテ尙ホ續テ道路偵察ニ任セシム
- 三、馬入川ノ線ニ達シアル下士斥候ハ現在ノ地ニ停止シ監視セシム

此命令ハ下士斥候ヨリ報告ヲ持テ來リタル傳騎ヲ持テ歸ラシム

九月二日午  
前十時三十  
分ニ於ケル  
獨立騎兵隊  
長ノ處置



九月二日午  
後零時中ニ  
於ケル情報

此クノ如クシテ獨立騎兵隊長ハ第一中隊ノ先頭ニアリテ九月二日午  
後零時半門澤橋ニ達ス此時情報ニ接ス其要旨左ノ如シ

●小田原方向ニ前進シタル將校斥候ヨリ

九月二日午前十時四十分東海道上二ノ宮發

一、敵ノ騎兵斥候ハ中村川ノ線ニ出沒ス

確信スヘキ土民ノ言ニ依レハ小田原ニハ稍々優勢ナル騎兵  
部隊アリ

二、將校斥候ハ小竹、曾我方向ヨリ小田原附近ヲ搜索セントス

●將校斥候中ヨリ曾屋方向ニ差遣シタル下士斥候ヨリ

九月二日午前十時四十分曾屋發

一、敵ノ稍々有力ナル騎兵部隊澁澤附近ニアリ

九月二日午  
時三十分ニ  
於ケル騎兵  
隊長ノ敵狀  
判斷

問 騎兵隊長ハ如何ニスルヤ

二、斥候ハ到ル所敵騎ニ妨ケラレ意ノ如ク運動スルヲ得ス  
三、小官ハ目下上大井方向ニ前進センコトヲ勉メツ、アリ

答 騎兵隊長ハ右ノ情報ニ依リ確實ナル根據トスヘキ敵狀ヲ知レリ

是レニ由テ爾後ノ運動方針モ自ラ決定スヘキナリ乃ハチ此運動方  
針ヲ決定スルニ付テハ騎兵隊長先ツ熟考シテ敵狀判斷ヲナスヲ要  
ス其判斷左ノ如シ

九月二日零時三十分ニ於ケル騎兵隊長ノ敵狀判  
斷

判次



主力ヲ以テ曾屋方向ヲ搜索シ一部ヲ以テ小田原方向  
ノ搜索ニ任スルヲ要ス

## 理由

午前十時ニ得タル情報ニヨツテ見レハ熱海附近ニハ敵ノ騎兵アリト  
云ヘリ今將校斥候ノ報スル所ノ在小田原騎兵部隊ハ恐ラク在熱海ノ  
者ガ前進セシナラン又下士斥候ノ報告ニ云ヘル澁澤附近ニアル騎兵  
部隊ニ在テハ左ノ如ク二様ノ判断ヲ下シ得ヘシ

- 一、小田原附近ニ進出シタル騎兵部隊ヨリ更ニ分遣シタルモノカ
- 二、別ニ足柄街道ヨリ進出シタルモノナルカ

地形上ヨリ判断スルトキハ敵ガ箱根山脈ヲ進出スルニ當リテハ使用  
シ得ヘキ數多ノ道路ヨリ分進セントスルハ自然ノ勢ヒニシテ實際有  
リ得ヘキコトナレハ足柄、熱海街道ノ兩方面ヨリ騎兵部隊ヲ前進セシ

ムルハ實際ニ正當ノ事ト考ヘラル之レニ由テ之レヲ見レハ澁澤附近  
ノ敵騎ニ付テハ或ハ第二項ノ判断コソ適中スルナラン  
我任務ハ曾屋並ニ小田原ノ兩方向ヲ搜索スルニアリ今ヤ兩方向ニ敵  
騎アリ其何レガ主力ナルヤ未タ知レス獨立騎兵ハ其何レカ一方ヲ選  
ヒテ主力ノ向フ所ヲ決セサルヘカラス且ツ獨立騎兵ハ搜索ヲナスト  
同時ニ枝隊ノ正面ヲ常ニ掩蔽スルコトヲ勉メサルヘカラス曾屋方向  
ハ直接枝隊ノ正面ニ當レリ  
敵ガ前進スヘキ首ナル道路タル者ハ東海道及ヒ曾屋街道ノ二條ナリ  
此二者ニ付キ地形上ヨリ利害ヲ比較スルニ東海道ハ海岸ニ接近シ南  
方ニ餘地ナシ殊ニ馬入川ハ河口ニ至ルニ從ヒ水深ク渡河ニ不便ニシ  
テ加之河口ニ於ケル渡河ヲ北方ヨリ攻撃セラル、コトアラハ直チニ  
海岸ニ壓迫セラル、ノ不利アリ之レニ反シ曾屋街道ハ此等ノ弊ナク



相模平原ノ中心鎖鑰トモ云フヘキ厚木、國分、長後、用田一帯ノ地區ニ達スルニ便ナリ唯タ途中善波峠ノ險アリト雖モ此弊ハ其南方ヲ迂回シ南矢名ニ通スル道路アルヲ以テ稍、價ヲ得ヘシ之レニ由テ見レハ敵ノ主ナル前進路ハ曾屋街道ナルヘク獨立騎兵ハ先ツ曾屋方面ノ敵騎ヲ驅逐シテ其方向ヲ搜索シ且ツ枝隊ノ正面ヲ掩蔽スルヲ以テ目下ノ急務トス小田原方向ハ現時派遣シアル將校斥候ヲ増加シ之レニ一任シ置クヲ以テ満足セサルヘカラス以上ノ理由ニ因テ左ノ處置ヲナス

一、第一中隊(二小隊缺ク)ヲ前衛トシ伊勢原ヲ經テ曾屋方向ニ前進セシム

二、將校斥候ヲ増加シ總員ヲ一小隊ニ充タシメ小田原方向ノ搜索ニ任ス

三、殘餘ヲ以テ本隊トシ前衛ニ跟随ス

四、現時マテ得タル情報ヲ枝隊長ニ報告ス

問 九月二日午後零時三十分ニ於テ獨立騎兵隊長ガ枝隊長ニ呈スヘ

キ報告ハ如何

答 九月二日午後零時三十分ニ於テスル獨立騎兵隊長ノ報告ハ實ニ枝隊長ニ大參考ヲ與フルモノナリ蓋シ枝隊長ハ敵ノ騎兵現出ニ由テ敵狀判斷ノ材料ヲ得レハナリ現時マデハ殆ント暗黒中ノ動作ニ等シク唯タ敵ノ運送船ガ駿河灣ニ集合スルト云フニ過キス甚タ漠然トシテ敵狀ノ推察、我動作ノ標準ヲ立ツヘキ根據ナカリシナリ此報告ヲ得バ枝隊長ハ少クモ敵ガ既ニ其騎兵部隊ヲ上陸セシメ之レヲ箱根山脈以東ニ放チタルコトハ知り得ルナリ乃ハ



獨立騎兵隊  
長ノ報告  
報告ニハ想  
像ニ係ルコ  
ト傳聞ニ係  
ルコトト實  
見セシコト  
トチ區別ス  
ルヲ要ス

チ午後零時三十分ニ於ケル騎兵隊長ノ報告ハ如何ニ記スヘキヤ、  
一般報告ノ要旨ハ既ニ「第四篇通報報告」ノ條ニ於テ説述セルヲ以  
テ爰ニ再設セス今情況ニ應スル一例トシテ左ニ報告文ヲ示ス

### 獨立騎兵報告

九月二日午後零時三十分門澤橋ニ於テ

- 一、小田原方向ニ差遣シタル將校斥候ノ報告ニ因レハ中村川ノ線ニハ敵ノ騎兵斥候出沒シ又小田原ニハ稍々優勢ナル騎兵部隊アルモノ、如シ
- 二、曾屋方向ニ派遣セラレタル下士斥候ノ報告ニ因レハ澁澤附近ニハ敵ノ稍々有力ナル騎兵部隊アリ
- 三、高座川ハ高倉附近ニ於テ河幅ハ狹キモ兩岸高ク歩兵ノ外ハ渡渉スル能ハス但シ本道上ノ橋梁ハ諸兵ノ通過ニ妨ケナシ

報告者ノ將  
來施サント  
スル意見ノ  
大要ヲ記ス  
ルコト必要  
ナリ

- 四、馬入川ハ大ニ減水シ岡田、戸田、田村、四ノ宮附近ハ各兵種ノ渡渉ニ妨ケナシ  
厚木橋梁ハ野砲通過ニ適セス  
馬入ノ橋梁ハ諸兵種ノ通過ニ妨ケナシ
- 五、小官ハ主力ヲ以テ曾屋方向ニ前進シ一部ヲ以テ小田原方向ヲ搜索セシメントス

某騎兵少佐

(此報告ハ並ミ(十)ノ速度ヲ以テ傳騎ニ由テ送達セラレ)

獨立騎兵ハ午後二時其前衛ノ先頭ヲ以テ下槽屋村兩端ニ達ス此時騎兵隊長ハ左ノ報告ニ接ス



●曾屋方向ニ於ケル下士斥候ヨリ(午後一時善波峠發)  
 小官等ハ澁澤方向ヨリ前進シ來リタル敵ノ騎兵約一中隊ニ擊退セ  
 ラレ伊勢原方向ニ向テ退却中ナリ  
 ●前衛ヨリ派遣シタル斥候ヨリ  
 敵ノ騎兵約一中隊我斥候ニ向テ追擊シツ、白根村ニ入レリ

問 騎兵隊長ハ如何スルヤ

答 伊勢原北方ニ於テ追擊シ來ル敵ニ向ヒ襲撃ヲ施行セントス  
 騎兵ノ襲撃ニ關シテハ第一篇騎兵戰鬥要領ノ條并ニ第四篇搜索警戒  
 ノ條等ニ於テ既ニ述ヘ置キシガ如ク抑モ我邦ノ如キ騎兵ハ紊リニ襲  
 撃ヲナスヘキモノニアラスト雖モ時ノ形勢必要ニ際シテハ決シテ辭

騎兵ノ襲撃  
 第四篇獨立  
 騎兵ノ條ヲ  
 参照

スヘキ所ニアラス寧ロ進ンテ之レヲ爲サ、ルヘカラサルコトモ繼陳  
 シ置ケリ乃ハチ目下ノ場合ニ於テ獨立騎兵隊長ガ襲撃ニ決心スルノ  
 必要アル所以ヲ單簡ニ左ニ述ヘン  
 敵ノ騎兵ハ約一中隊ニシテ我ヨリ劣勢ナリ我任務トシテハ曾屋方向  
 ノ搜索ヲ迅速ナラシメサル可カラス又枝隊ハ目下尙ホ旅次行軍ヲ以  
 テ行軍中ナリ即ハチ此敵騎ヲシテ少シタリトモ東方ニ進マシムルハ  
 何レノ方面ヨリ考察スルモ甚タ不利ナリ目下ハ先ツ此騎兵ヲ防止ス  
 ルコトヲ第一ノ急務トシ次ニ曾屋方向ノ搜索手段ヲ考ヘサルヘカラ  
 ス  
 之レカ爲メニハ如何スヘキカ襲撃ノ外ナキナリ蓋シ伊勢原附近ノ地  
 形ハ高キヨリ低ニ向テ敵ヲ襲撃シ得ヘク我ニ有利ニシテ且ツ兵力ハ  
 優勢ヲ占メアル故我ニ充分ノ利アリ



或ハ徒歩戰ヲ以テ敵騎ヲ防止スル如キ考案ヲ有スルモノアルヤモ知レサレトモ之レ實ニ拙策タルヲ免レス夫レ徒歩戰ハ騎兵カ不完全ナル歩兵ノ動作ヲナスニ外ナラスシテ騎兵ノ特有ナル馬足ヲ利用シ能ハサルトキニ於テノミ己ムヲ得ス爲スモノニシテ決シテ好ンテ爲スヘキモノニアラス且ツ此伊勢原附近ノ地形ニ於テハ到低徒歩戰ヲ以テ敵騎ヲ防止シ能ハサル可ク敵ハ隨意ニ我カ正面ヲ避ケ迂回シ得ヘキナリ

問 騎兵隊長ハ右ノ決心ニ基キ如何ナル順序如何ナル處置ヲ以テ襲撃ヲ實行スルヤ

答 敵ハ近ク白根村ニ來リアリ速ニ伊勢原北方ニ至リ敵ノ來ルヲ待チ敵カ伊勢原ヨリ東方ニ出テ即チ高地ノ西側斜面ヲ登ルヲ待ツテ襲撃セン爲メ本隊ハ早蹕ヲ以テ前衛ニ距離ヲ閉進ス

第一篇騎兵  
戰闘要領中  
其二襲撃ノ  
條ヲ参照

此クノ如クシテ田中村西端ニ達セハ横隊ヲ作リ一小隊ヲ第二線トシ梯隊ヲ以テ前進シ標高<sup>47,5</sup>北方高地ノ北側斜面ニ於テ西南ニ向ヒ蔭蔽シテ敵ヲ待ツ

問 襲撃ハ如何ナル種類カ

答 密集襲撃

敵ノ騎兵約一中隊ハ我下士斥候ヲ追躡シツ、伊勢原東方ニ出ツルヤ横隊ヲ以テ東方ニ向ヒ斜面ヲ上リ左側ノ敵ノ斥候ハ我獨立騎兵ガ標高<sup>47,5</sup>北方ノ北側斜面ニアルヲ發見シタル者ノ如ク頻リニ伊勢原ノ方ニ向ツテ記號ヲナセリ

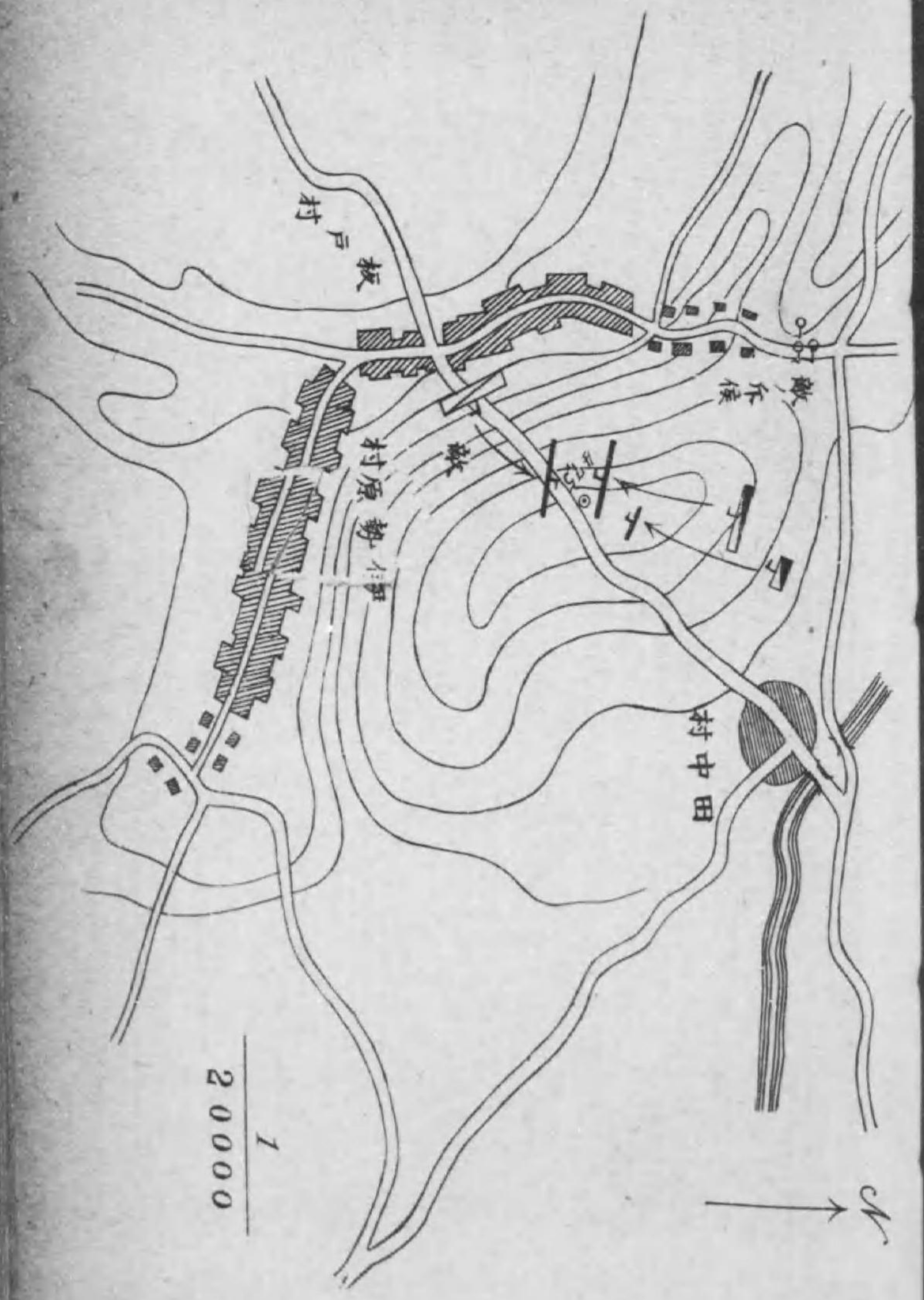
我騎兵隊長ハ今ヤ襲撃ニ轉スヘキ時機ナリト斷定シ敵ノ側面ニ向テ襲撃ヲ始ム

敵ハ我カ高地上ニ現ハル、ヤ方向變換ヲナシ彼亦タ我ニ向テ襲撃ニ



敵力退却ス  
レハ其觸接  
チ失ハサル  
爲メ常ニ追  
蹙斥候ヲ出  
スコト緊要  
ナリ

轉ス  
此ニ於テ彼我ノ大衝突起リシガ敵ハ地形ノ不利アルト我ニ先キヲ制  
セラレタルト兵力ノ劣勢ナルトノ原因ニ由テ大敗混亂シテ西方ニ潰  
走ス  
我騎兵隊長ハ兵力ヲ集合シ追蹙斥候ヲ出ス  
此時我獨立騎兵隊長ハ人馬既ニ疲勞セルヲ以テ直チニ全力ヲ以テ敵  
ヲ追撃スル能ハス暫時休憩ヲ命ス





是レヨリ小田原方面ニ於ケル將校斥候ニ就テ若干研  
究セントス

小田原方向ニ於ケル將校斥候ハ前ニ述ヘシ如ク東海道上ニ於テハ敵  
ニ妨ケラレ前進スルヲ得ズ爲メニ小竹方面ヨリ酒匂川河孟ニ進出セ  
ントセシガ是レ又敵ノ妨害ヲ受ケ目的ヲ達スル能ハス漸次敵ニ壓迫  
セラレ平塚西方花水川ノ線ニ退却シ前面ニハ多クモ一中隊ニ過キサ  
ル敵ノ騎兵追接シ來レリ

問 將校斥候ハ爾後如何ナル決心ヲ取ルヤ

注意花水川ハ滿潮ノ爲メ徒涉ヲ許サズ

答 前ニ獨立騎兵隊長ノ決心ニ就テ述ベタルト同様此將校斥候ニ於  
テモ速ニ小田原方向ヲ搜索スルト敵ヲ成ル可ク東方ニ進マシ  
メサルコトヲ勉ムルヲ要スルハ勿論ナリ然レモ彼我兵力ノ關係上



今ヤ消極的ノ動作ニ出テサルヲ得ス即ハチ小田原方向ノ搜索ハ一時斷念シ敵ヲ拒支スルコトヲ勉メサルヘカラス幸ヒニモ花水川ハ徒涉シ得ヘカラサルヲ以テ此線ニ據リテ徒歩戰ヲ用ヒ敵ヲ拒支スヘキナリ目下ノ形勢ハ既ニ騎兵ノ特有ナル馬力ヲ以テスルモ到底兵力敵セス唯々地形ニ依頼シ火力ニ依ルノ外ナキナリ

是レ前述獨立騎兵ノ積極的動作即ハチ襲撃ニ就テ述ヘタルト全ク正反對スル所ノ現象ナリ之レニ由テ凡ソ戰術動作ハ時ノ形勢ニ從フテ千種萬化スルコトヲ了解スルニ足ラン

或ハ論者ハ云ハン將校斥候ナル者ハ元來出沒不測遊動的ノ者ニシテ此クノ如ク消極的防勢ヲ取ルニ及ハス敵ヲ放置シ更ニ大迂回ヲ以テナリトモ敵方ノ搜索ヲ勉ムヘキナリト蓋シ是レ原則上

普通ノ論法タリ然レトモ情況ハ如何セン今ヤ之レヲ許サス迂回ヲ以テ敵方ノ搜索ヲナサントスルモ地形之レヲ許サス將校斥候ノ動作スヘキ區域ハ已ニ敵ノ爲メ到ル處制セラレ餘地ヲ剩サス此ニ至ツテハ最早將校斥候ノ出沒機變ヲ許サ、ルナリ又後方ノ情況ハ如何ゾヤ枝隊ハ今分進行軍中ナリ敵ヲ東方ニ進メ枝隊ノ情況ヲ全ク暴露スルニ至ルハ最モ不利ナリ是レ將校斥候ガ已ムヲ得ス前陳ノ如キ處置ヲ取ル所以ナリ

尙ホ注意スヘキハ將校斥候ト雖トモ其兵力ニ由テ一様ニ云ハレス數騎ヨリナル斥候ナレバ防禦力モナク一ツニ運動ノ機敏ニ依頼スヘキノミナリ然レトモ現在此場合ノ將校斥候ハ兵力ノ増加ヲ受ケ實員一小隊ヲ有セリ即ハチ若干ノ抵抗ヲ有スル一部隊ナリ此部隊ハ東海道上掩護ノ唯一ノ者タルナリ



九月二日枝  
隊本隊ノ情  
況

遠ニ遠キ時  
ニ於ケル行  
軍前哨ノ警  
戒

是レヨリ枝隊本隊ノ情況ニ就キ若干研究セントス

枝隊長ハ左縦隊ノ歩兵第二聯隊ノ先頭ニ在ツテ行進シ九月二日午後  
四時豫定ノ如ク岡津ニ於テ伊勢原附近ニ於ケル騎兵ノ衝突及ヒ花水  
川ノ線ニ退却セル將校斥候等ノ事件ニ關スル報告ヲ受領ス

問 枝隊長ハ處置アリヤ

答 左ノ處置ヲナス

一、和泉ニ歩兵一中隊ヲ差遣シ用田及ヒ石川方向ニ對シ單箇ナル警

戒ヲ設ケシム

二、歩兵第二聯隊ハ豫定ノ如ク宿營シ稍ヤ有力ナル外衛兵ヲ以テ舍

營地周圍ヲ警戒セシム

三、右縦隊ニハ現時ニ至ル迄ノ情報ヲ通報ス

此場合ニ於ケル警戒ハ右第一第二項ノ如ク所謂行軍前哨ノ單箇ナル

モノニテ可ナリ蓋シ前面ニアル者ハ敵ノ騎兵部隊ニシテ之レニハ我  
獨立騎兵ガ對シアリ且ツ既ニ日没ニモ近ク敵ノ急襲ヲ受クハキ恐レ  
少シ唯タ願慮スヘキハ花水川ノ線ニ據レル我騎兵部隊ハ劣勢ナルカ  
故ニ更ニ擊退セラレ爲メニ敵騎ノ侵入シ來ルコアルヤモ知レサルニ  
アリ假令ヒ此ノ如キコアルモ第一第二項ノ如ク警戒ヲナシアレハ充  
分ナラン和泉ニ派遣スル歩兵部隊ハ敵方ニ對シ單箇ナル前哨ヲ配布  
シ以テ警戒スルト同時ニ一方ニハ同地ニ豫定ノ如ク宿營スヘキ騎兵  
第一中隊ノ一小隊ヲ安全ニ宿營シ得セシメンカ爲メナリ  
元來此クノ如ク前面ニ敵カ存在スルトキニ於テ任務ナキ騎兵ハ歩兵  
ノ後方ニ宿營シ其掩護ヲ受ケシムヘキモノナルヲ以テ歩兵部隊ヲ和  
泉ニ派遣セス矢張歩兵ノ前哨ヲ岡津附近ニ設ケ此騎兵小隊ヲ岡津ニ  
退却セシムルモ亦タ一法ナレトモ是レ徒勞タルノ嫌ヒアリ之レニ反







警戒面ハ從ツテ廣大トナリ且ツ多少ノ集結セル兵力ヲ交通路ノ近傍ニ置クノ必要アリ之レニ反シ乙者ハ只ダ自衛ノ爲メ若干ノ監視兵ヲ配布スルニ留メ宿營地ハ成ル可ク敵ノ衝突ヲ避クル爲メ大交通路附近ヲ避ケ兵力ヲ集結シ警戒面ヲ減シテ警戒兵ヲ節減シ一旦敵襲ニ當ツテハ退却便ナル地ヲ撰ブヲ要ス

目下伊勢原附近ニアル獨立騎兵ハ甲者ノ法ニ依ルカ乙者ノ法ニ依ルカ蓋シ乙者ヲ以テ適當トセン何トナレハ後方枝隊本隊トノ距離ハ遠ク之レカ爲メニ警戒線ヲ設ケントセハ非常ニ廣大ナル線トナリ決シテ警戒ヲ完フシ得ヘキモノニアラズ否ナ原則上之レヲ爲スヘキモノニアラス枝隊本隊ハ必ラスヤ別ニ直接警戒兵ヲ其宿營地附近ニ出スヘキモノナリ

此ヲ以テ獨立騎兵隊ハ乙者ノ如ク唯タ自衛ノ目的ヲ以テ警戒シ兵力

ヲ成ルヘク休養セサルヘカラス然ラハ何レノ地ニ宿營スヘキカ伊勢原中央十字路附近ノ如キ交通ノ衝點ヲ避ケ(甲者ノ目的ノ爲メニハ此クノ如キ衝點ニアルヲ可トスレトモ)伊勢原東南端ノ大賀寺附近ニ集團シテ宿營スルヲ可トス此地點ハ多少敵ノ直進第一ノ衝ヲ避ケテ且ツ衝路タル會屋街道ヲ監視スルニハ便ニシテ又集合或ハ退却ニモ便ナリ

其警戒ハ宿營地ノ周圍ニ若干ノ哨兵ヲ直接警戒ノ爲メ配布シ又敵ト觸接ヲ保チ敵ヲ監視スル爲メニハ有力ナル獨立下士哨ヲ白根村及ヒ東大竹村附近ニ出シ且ツ斥候ヲ會屋並ニ南原方向ニ差遣ス

● 九月二日午後九時ニ於ケル情況



九月二日午後九時迄ニ枝隊長ノ得タル情報左ノ如シ  
信スヘキ土民ノ言ニヨレバ關本(足柄街道上)川村山北關本ノ西北  
方酒匂川河岸附近ニハ強大ナル諸兵連合ノ敵兵アリ又小田原ニ  
ハ少クモ一千人ヲ下ラサル敵兵アリ

第五問

九月二日午後九時ニ下スヘキ枝隊命令

九月二日午後九時ニ於テ下ス所ノ命令ハ敵ニ向ヒ警戒行軍ヲナスヘ  
キ行軍命令ナリ即ハチ左ノ如シ

(左縦隊ノ諸隊ニ與フルモノ)

枝隊命令

九月二日午後九時  
岡津村旅團司令部ニ於テ

九月二日午後九時ニ下スヘキ枝隊命令  
敵ニ向ヒ警戒行軍ヲナスヘキ行軍命令

左縦隊ニ與フル命令

- 一、曾屋、大磯附近ニハ各々敵ノ騎兵約一中隊アリ  
信スヘキ土民ノ言ニヨレハ關本、川村山北附近ニハ強大ナル諸兵連  
合ノ敵兵アリ又小田原ニモ一千人ニ下ラザル敵兵アリ  
我獨立騎兵ハ主力ヲ以テ伊勢原附近ニ、一部ヲ以テ平塚附近ニアリ
- 二、枝隊ハ明日用田附近ニ前進シ馬入川ノ線ニ於テ敵ヲ拒支セントス
- 三、少佐某ハ第二聯隊第一大隊(二中隊欠ク)及ヒ騎兵第一中隊ノ一小隊  
(二分隊欠ク)ヲ以テ前衛トナリ午前七時四十分其歩兵ノ先頭ヲ以テ  
高座川ノ橋梁ヲ出發シ大山街道上ヲ門澤橋ニ向ヒ前進スヘシ  
殊ニ左側ヲ警戒スヘシ
- 四、爾餘ノ諸隊ハ歩兵、山砲、野砲、工兵、衛生隊ノ順序ヲ以テ午前七時迄ニ  
岡津西端ヲ先頭トシ途上縦隊ニ集合スヘシ
- 五、大行李ハ衛生隊ノ通過後岡津村東端ニ集合シ本隊ノ後尾ヨリ約千



五百米突ヲ隔テ、跟隨スヘシ  
 六、輜重第一梯隊ハ午前十時迄ニ其先頭ヲ以テ岡津村東端ニ同第二梯隊ハ其先頭ヲ以テ正午迄ニ程ケ谷ニ前進スベシ  
 七、余ハ本隊ノ先頭ニ在リ

枝隊長署名

此命令ハ騎兵小隊及ヒ歩兵第二聯隊ノ諸隊ニハ命令受領者ヲ招致シテ傳達シ砲兵、工兵、衛生隊ニハ筆記シテ傳騎ヲ以テ送達ス

(右縱隊ニ與フルモノ)

枝隊命令

九月二日午後九時岡津村旅團司令部ニ於テ

右縱隊ニ與フル命令

一、曾屋、大磯附近ニハ各々敵ノ騎兵約一中隊アリ  
 信ズベキ土民ノ言ニヨレハ關本、川村山北附近ニハ強大ナル諸兵連合ノ敵兵アリ又小田原ニハ一千人ヲ下ラサル敵兵アリ  
 我獨立騎兵ハ主力ヲ以テ伊勢原附近ニ一部ヲ以テ平塚附近ニアリ  
 二、枝隊ハ明日用田附近ニ前進シ馬入川ノ線ニ於テ敵ヲ拒支セントス  
 三、右縱隊ハ明日深谷ヲ經テ午前十時迄ニ其先頭ヲ以テ用田ニ前進スヘシ  
 但シ一小隊ヲ厚木ニ派遣シ同地ノ橋梁ヲ占領セシムヘシ  
 四、余ハ午前七時岡津村出發左縱隊本隊ノ先頭ニアリテ行進ス

枝隊長署名

此命令ハ筆記シテ傳騎ニ由テ傳達セララル



輻重梯隊ニ  
與フル特別  
命令

(輻重梯隊ニ與フルモノ)

枝隊命令

九月二日午後九時  
岡津村旅團司令部ニ於テ

- 一、敵ノ騎兵ハ曾屋大磯附近ニアリ其ノ後方岡本小田原附近ニハ諸兵連合ノ敵兵アリ
- 二、枝隊ハ明日用田附近ニ前進シ馬入川ノ線ニ於テ敵ヲ拒支セントス
- 三、輻重梯隊ハ左ノ如ク梯隊區分ヲナシ第一梯隊ハ午前十時迄ニ其先頭ヲ以テ岡津村東端ニ、同第二梯隊ハ其先頭ヲ以テ正午迄ニ程ヶ谷ニ前進スヘシ

第一梯隊

- 歩兵彈藥三分一縱列
- 砲兵彈藥三分一縱列
- 野戰病院一個

第二梯隊

- 歩兵彈藥一縱列
- 砲兵彈藥三分二縱列
- 野戰病院一個
- 糧食一縱列

四、余ハ午前七時岡津村出發大山街道上ヲ用田ニ向ヒ前進ス

枝隊長署名

此命令ハ戶塚ヨリ國用電信ヲ利用シ電報ス

獨立騎兵隊長ニ與フル訓令

九月二日午後九時  
岡津村旅團司令部ニ於テ



一、枝隊ハ明日午前十時迄ニハ用田附近ニ集合シ馬入川ノ線ニ據テ敵ヲ拒支セントス

厚木ヨリ田村附近ニ至ル馬入川諸渡場ハ午前十時乃至十一時ノ間ニ於テ各歩兵ノ一部隊ヲ以テ占領セシムル筈ナリ

二、貴官ハ特ニ關本附近ノ敵狀ヲ搜索スルヲ勉メ且ツ一部ヲ以テ四ノ宮ヨリ下流馬入川ノ諸渡場ヲ監視セシムルヲ要ス必要ノ場合ニ於テハ馬入橋梁ヲ破壊スルモ妨ケナシ但シ鐵道橋ハ此限リニアラズ若シ退却ヲ要スル場合ニ於テハ專ハラ東海道上方面ニ退キ枝隊ノ左側ヲ警戒スルヲ勉ムヘシ

三、余ハ明日午前七時岡津村出發大山街道上ヲ用田ニ向ヒ前進ス

枝隊長署名

此訓令ハ報告ヲ持チ來リシ傳騎ヲシテ持チ歸ラシム

以上ノ命令、訓令等ニ就キ若干ノ説明注意ヲ左ニ述ヘン

凡ソ命令ヲ下サントスルニ當ツテハ常ニ先ツ情況判斷ヲナシ此判斷ノ結果ヲ以テ命令ノ根據トナサザル可カラス九月二日午後九時ニ於テ枝隊長ハ諸情報ヲ考案シ次ノ如ク情況ヲ判斷シタルナルヘシ

關本及ヒ川村山北附近ノ敵ハ其兵力未詳ナレモ何ニセヨ諸兵種ヨリナル者ニシテ侮ルヘカラス又小田原附近ノ敵ハ歩兵一大隊許リノ者ナレモ恐ラク其後方ニ後續部隊アルナルヘシ蓋シ敵ハ關本、小田原二方面ヨリ酒匂川河孟ニ進出セントシツ、アルモノナルヲハ確實ニシ



テ此敵カ酒匂川河孟ニ於テ兵力ヲ合シ我ニ向テ前進シ來ルカ將タ又  
 管屋街道及ヒ東海街道ヨリ兩縱隊トナリテ前進スルヤ未タ判然セス  
 ト雖モ兎ニ角酒匂川河孟ニ於テ隘路ヨリ進出スル兵力ヲ集團シテ相  
 模平原ニ向ヒ前進ヲ企圖スルハ疑ヒヲ容レズ

我任務上馬入川ヲ超ヘテ此兵力未詳ノ敵ニ對シ輕忽ニ前進スルハ不  
 利ナルノミナラス目下其必要ヲ見サルナリ蓋シ馬入川ノ線ヲ利用シ  
 テ敵ヲ待タバ充分ニ我任務ハ遂行シ得レハナリ

地形上馬入川ハ相模平原ニ於テ敵ヲ防止スル唯一ノ戰術要線ナリ敵  
 ハ管屋街道或ハ東海道ノ何レヨリ前進シ來ルモ我主力ヲ用田附近ニ  
 收結シ置ケハ臨機之レニ應シ得ヘシ若シ敵ガ戸田附近ヨリ渡河シ來  
 レハ直チニ正面ヲ以テ之レニ應スヘク又馬入附近ヨリ渡河シ來レハ  
 北方ヨリ南方ニ向ヒ敵ノ側面ニ動作スヘク即ハチ用田附近ニ於テ所

謂河川防禦ノ要領タル後退ノ準備陣ヲ占ムルヲ得策トス  
 乃ハチ枝隊長ハ以上ノ如キ判斷ニ由テ先ヅ用田附近ニ準備陣ヲ占ム  
 ルノ判決ヲ以テ前記諸命令ハ下シタルナリ

○明日ハ最早旅次行軍ヲ以テ行進スル能ハズ何時我騎兵ハ擊退セラ  
 ル、ヤモ知レヌ故ニ縱隊ノ前方ニハ一ツノ警戒部隊ヲ出ス必要ヲ  
 生ズ然レトモ敵ハ尙ホ遠隔シ且ツ馬入川ノ障礙ヲ控ヘアルヲ以テ  
 不意ニ大敵ト衝突スヘキ患ナシ是レ警戒行軍ヲ命スレトモ其警戒  
 ハ最モ單簡ニシテ足ルナリ

○命令中ニ其發令地ヲ示スニ當リ行進中ニアリテハ通常地名ノミヲ  
 以テスレトモ宿營中ニアリテハ一ツノ司令部或ハ本部ヲ定設シア  
 ルヲ以テ通常地名及ヒ司令部(本部)ノ名ヲ記スヲ可トス由テ前記命  
 令ニハ「岡津村ニ於テ」ト書セズ「岡津村旅團司令部ニ於テ」ト記セリ



○命令文第一項ニ於テ我獨立騎兵ノ所在地ハ前衛司令官ノ參考トナルモノナレハ其大體ノ位置ヲ單簡ニ示セリ

○前衛ノ出發時刻ト本隊ノ集合時刻ハ行軍長徑ヲ顧慮シ適宜ニ前衛ヨリ距離ヲ取ツテ本隊ガ續行スルヲ得無益ニ本隊ヲ集合所ニ停止セシメサルヲ計ラサルヘカラス即チ前衛ノ出發時間七時四十分ハ本隊ノ集合時間七時ニ對シ彼此離隔ノ距離ニ準シテ定メタルナリ

○本隊ノ集合時間ハ左縱隊ノ最後尾即ハ芝生附近ニアル者ヲシテ過早ノ時刻ニ出發スルノ勞ナカラシムルコトヲ顧慮シテ決定セリ又岡津ヨリ芝生間ニ延長シテ宿營セル部隊ヲシテ集合ノ爲メ無益ニ開進セシメサル爲メ途上縱隊ヲ以テ集合スルコトニセリ

○大行李ノ集合ニ就テハ從來種々ナル命令ノ方法アレトモ要スルニ軍隊ノ集合ト衝突セサル如ク命令セサルヘカラス大行李ヲ諸隊出

大行李集合  
ニ關スル注  
意

發前ニ集合セシムレハ軍隊ノ運動ヲ妨害スルコトナシト雖モ諸隊ハ未タ起床セサル以前ヨリ行李ヲ取り上ゲラル、ノ不快アリ之レニ反シ諸隊出發ノ際同時ニ集合セシムレハ行李ノ集合ト軍隊ノ集合ト彼此混雜スルノ弊アリ故ニ行李ハ概ネ諸隊出發ノ後ニ於テスルヲ可トス(退却ノ時ハ此限ニアラス)

乃ハチ大行李ノ集合ハ一定ノ時間前ニ隨意ニ道路ニ出テ、軍隊ノ妨害トナルヲ防ク爲メ多クハ軍隊ノ行軍長徑ヲ顧慮シ其後尾ガ宿營地ヲ離ル、ノ時間ヲ以テ大行李ノ集合ヲ始ムル時間トシ此集合ヲ始ムル時間ヲ示スヲ可トス即ハチ大行李ハ何時ヨリ何地ニ集合ヲ始ムヘシト命スル如シ若シ之レニ反シ集合終ルノ時間ヲ示ス時ハ(假令ヘハ大行李ハ何時迄ニ集合シアルヘシ)各隊ノ行李或ハ早クヨリ集合ヲ始メテ軍隊ノ集合ヲ妨害スルノ恐レアリ



小部隊ニ在ツテハ別ニ集合ヲ始ムルノ時間ヲ示スコトナク單ニ大行李ハ諸隊出發ノ後某所ニ集合云々ト命スルコトアレトモ此方法ハ大部隊ノ爲メニ宜シカラヌ何トナレハ今假リニ甲乙丙三種ノ兵隊ガ宿營シアリトスル時ニ於テ彼此共ニ各隊ノ出發シ終リタル時刻ヲ明瞭ニ知り得サル爲メニ乙隊ノ未タ出發セサル前ニ甲隊ハ既ニ自己ノ隊ガ出發シタルヲ以テ他隊モ最早出發シタルナラント想像ニテ集合ヲ始メ丙隊モ亦タ是レト同様ノ考ヘヲ以テ集合ヲ始ムル如キニ至ルコトアリテ遂ニ衝突混雜ヲ起スコト往々發生スレハナリ

又大行李ノ集合場所ニ就テモ各利害アリ宿營地ノ前方ニ集合スルハ後方集合ノ如ク後戻リヲナス徒勞ノ不利ナキモ宿營地前方ハ概ネ軍隊ノ集合所トナルヲ以テ大行李集合所ノ爲メ適當ノ地點ヲ得難

ク且ツ混雜ヲ起ス不利アリ之レニ反シ宿營地ノ後方ニ於テスル集合ハ前者ノ如キ不利ナキモ前方宿營部隊ノ行李ハ後戻リシテ集合スルノ徒勞ヲ免レズ故ニ概ネ宿營地ノ中央ニ於テ道路外ニ適當ノ集合所アリテ且ツ之レニ至ル道路ガ軍隊ノ交通ト衝突スルナキ爲メ別路ヲ取り得ル時ハ最モ可ナルモノトス

九月二日夜ニ於ケル命令ニ於テ大行李ノ集合時間ハ衛生隊ノ通過後ト規定シ其場所ハ岡津東端トセリ其理由ハ左ノ如シ

一、此ノ場合ニ於テハ各隊ノ宿營地ガ道路ニ沿フテ延長シ衛生隊ガ最後尾ナルヲ以テ衛生隊サへ通過シ終レハ諸隊ガ悉ク通過シタルコトハ紛レナク明瞭ナリ

二、諸隊ハ延長ノ間ニ宿營シアルヲ以テ各隊ガ集合所ニ赴ク時ニ於テ愈々何時ニ何隊ガ何點ヲ通過スルト云フコト確知セラレ



ザルヲ以テ時間ヲ以テ大行李ノ集合時間ヲ規定スルコト雖シ  
 三、岡津東方ニ集合所ヲ定メ置カバ各隊行李ハ後戻リヲナスコトナ  
 ク漸次前方ニ距離ヲ閉進シ而シテ本隊ニ續テ適時規定ノ距離  
 ヲ取ツテ出發スルニ便ナリ

○右縦隊ヨリ厚木橋梁ノ占領部隊ヲ派遣セシメタルハ距離ノ關係上  
 便宜ナルヲ以テナリ

○輜重ニ與フル命令文中敵狀ハ他ノ命令ヨリ殊ニ單簡ニセリ是レ輜  
 重ハ直接敵方ニ對スル顧慮ヲ要セス唯タ一般ノ景況ヲ承知シテ輜  
 重ノ進退ヲ指揮スル爲メノ參考ニ供スルニ過キサレハナリ

○獨立騎兵隊長ニ與フル訓令中敵狀ヲ示サ、ルハ凡テ枝隊長ノ得タ  
 ル情報ハ此騎兵隊長ノ手ヨリ送付セラレタル者ナルヲ以テ既ニ騎  
 兵隊長ハ承知シアルヲ以テナリ

○全訓令第一項ニ於テ馬入川渡場ヲ歩兵部隊ニ由テ占領スヘキ豫定  
 ノ時間ヲ示セシハ騎兵隊長ガ不利ノ形勢ニ於テ退却スル時ノ爲メ  
 ノ參考並ニ歩兵占領後ハ若干ノ敵兵ガ我騎幕ヲ通過シテ侵入スル  
 コトアルモ直チニ馬入川ヲ渡ツテ枝隊本隊ニ迫マルコトノ患少ナ  
 キノ安心ヲ與ヘ騎兵ノ動作ヲ敏活ナラシムル爲メニ必要ナリ

○馬入川ニ於テ四ノ宮ヨリ下流マデ歩兵ヲ派遣スルハ距離大ナリ之  
 レハ騎兵ノ力ニ由テ監視セシメサルヘカラス是レ騎兵隊長ニ一部  
 ヲ以テ四ノ宮下流ノ監視ヲ命セシ所以ナリ  
 全體ニ於テモ距離ノ關係上東海道方面ハ先ツ騎兵ヲ以テ警戒シ愈  
 々敵ノ前進ヲ知リタル後枝隊ガ此方面ニ向テ運動スルノ方策ヲ取  
 ルハ自然ノ勢ヒナリ是レ騎兵ノ退却ニ當テハ右翼ノ顧慮ハ放置シ  
 テ東海道方面ニ退クコトヲ訓令セシ所以ナリ



敵ヲ防止スル爲メニハ馬入橋梁ノ破壊ヲ必要トスルコトアルヘシ  
 故ニ之レハ豫メ許可セリ然レトモ鐵道橋ノ如キハ後來國防軍ノ作  
 戦ニ大關係アルヲ以テ下級指揮官ガ案リニ破壊スヘキモノニアラ  
 ス故ニ此破壊ハ許サ、ル所以ナリ

○諸命令訓令ノ末項ニ於ケル「運動中、枝隊長ハ位置ハ指示ハ報告ノ送  
 附ヲ容易ナラシムル爲メ明瞭ニ示スヲ要ス

○諸命令ノ傳達方ニ就テ發令者ハ常ニ注意シテ迅速且ツ便利徒勞ヲ  
 避ケシメサルヘカラス即ハチ騎兵隊長ニ與フル訓令ヲ送達スルニ  
 報告ヲ持チ來リタル傳騎ヲ利用シテ持チ歸ラシメ又輻重ニ與フル  
 命令ハ國用電信ヲ利用セル如シ

○命令訓令ニ於テ署名ナキモノハ無効タルモノナリ署名ヲ以テ始メ  
 テ發令權ノ所在ヲ明カニスルモノナリ

敵騎相對シ、敵ノ騎幕、内ニ侵入シ、テ後方ヲ搜索スル時ノ決心處置

### 第六問

九月二日午後九時ニ於ケル訓令ニ基キ獨立騎兵隊  
 長ハ明日如何ナル決心並ニ處置ヲナスヤ

明日ニ於ケル騎兵隊長ノ任務ハ困難ナリ前面ニハ敵ノ騎幕アリ東海  
 道方面ニ於ケル我カ一小隊ノ騎兵ハ前面ニ優勢ナル敵ノ騎兵ヲ控ヘ  
 アリ此情況ニ於テ關本方向モ搜索セサルヘカラス四ノ宮ヨリ下流ニ  
 於ケル馬入川モ監視セシメサル可カラス

善波村南原ニ亘ル線ヨリ以西ハ曾屋街道ノ外ハ殆ンド騎兵ノ自由ナ  
 ル運動ヲ許スヘキ道路並ニ地區ナシ加之曾屋街道上ニハ善波峠ノ險  
 アリ實ニ我騎兵ハ地形ノ爲メニ動作ヲ大ニ拘束セラル、ナリ假令ヒ



一時前面ノ敵騎ヲ突破シテ西方ニ進ムモ忽チ退路ヲ絶タレ折角得タル好良情報モ遂ニ之レヲ送達スルノ道ナキニ陥ルヘシ故ニ輕忽ニハ進入スルヲ得ス然ラバ此場合ニ於テ如何ナル搜索手段ヲ取ルヘキカ曰ク多クノ斥候ヲ諸方ニ派遣シ此斥候ノ何レカ敵ノ空隙ヲ伺ヒ進入シテ良情報ヲ得ルノ幸運ヲ僥倖スルカ或ハ全力ヲ以テ敵ヲ擊破散亂セシメツ、前進スルカニアリ而シテ東海道方面ニ於テハ現在ノ一小隊ヲシテ飽クマデ當方面ノ敵ヲ拒支シツ、已ムヲ得サレハ馬入ノ橋梁ヲ破壊シテ渡場ヲ警戒セシムルノ策ニ出ツルノ外ナリ

乃ハチ九月三日ノ爲メニスル獨立騎兵隊長ノ決心處置ノ要點ヲ列記スレハ概ネ左ノ如シ

- 一、在平塚騎兵小隊ニハ左ノ件々ヲ命令ス
- 1 成ルヘク當面ノ敵騎ヲ防止シ已ムヲ得サレハ馬入川左岸ニ退

却シ四ノ宮ヨリ下流馬入川ノ諸渡河點ヲ監視スルコト

2 必要ノ場合ニハ馬入橋梁ハ破壊スルモ妨ケナシ但シ鐵道橋ハ此限リニアラス

二、將校一名、騎卒三名ヨリナル將校斥候ヲ明拂曉ヨリ上大井方向ニ差遣シ關本附近ニアル敵狀ヲ搜索セシム

三、下士一名、騎卒三名ヨリナル下士斥候ヲ南矢名方向ヨリ敵ノ騎幕内ニ進入スルコト勉メシム

四、右ト同一編成ノ下士斥候ヲ同一目的ヲ以テ前記二斥候ノ中間ニ進ム

五、騎兵隊ノ主力ハ一小隊ヲ前衛トシ午前六時出發南矢名方向ニ前進シ將校ノ指揮ニ屬スル二分隊ノ右側衛ヲ善波峠ヨリ會屋方向ニ進マシム



六、騎兵隊長ハ右ノ如ク處置ヲナシ爾後ノ情況ニ由テ到底我カ斥候  
 ガ敵騎幕ニ入ル能ハサル時ハ右側衛ヲ以テ右側ノ警戒ニ任シ主  
 力ハ威力ニ由テ敵ノ弱點ヲ突破シツ、敵狀搜索ヲナスノ考案ヲ  
 以テ主力ヨリ支分スル兵力ハ成ルハク滅シ常ニ多クノ騎兵ヲ撐  
 握シアランコトヲ注意ス

騎兵集團ノ  
 必要

騎兵ノ主力ガ若シ善波峠方向ニ進ミ一旦此峠ニ於テ敵ノ止阻スル所  
 トナル時ハ一步モ動作ノ自由ヲ得ス故ニ豫メ之レヲ顧慮シ動作ノ自  
 由ヲ得ン爲メ以上第五、第六項ノ如ク南矢名方向ヨリ敵方ニ進ムコト  
 ニ決心シタルナリ而シテ數ガ善波峠方向ヨリ進出スル時ハ之レヲ妨  
 害スル爲メ右側衛ヲ此方向ニ差遣セリ  
 騎兵ノ戰鬪ハ集團力ヲ以テ緊要ノ素質トス騎兵ニシテ集團セズ隊長

ハ之レヲ手裡ニ掌握スルコトナキニ於テハ騎兵ノ戰鬪ハ何ノ効ヲモ  
 奏スル能ハサルヘシ故ニ必要己ムヲ得サルニ非ラサレハ兵力ヲ分割  
 セサルヲ要ス  
 下級指揮官ハ假令ヒ任務ノ爲メ一時隊長ノ手裡ヲ離ル、コトアルモ  
 一度其任務ヲ充セバ迅速ニ部下ヲ集合シテ隊長ノ手裡ニ復歸スルコ  
 トヲ勉メサルヘカラス要スルニ騎兵ハ何時ニテモ爲シ得ル限リハ集  
 團シテ隊長ノ一指揮下ニ在リ以テ好機ニ投シテ隊長カ直チニ之ヲ使  
 用シ得ル如クナラサルヘカラス



# 作戰九月三日

九月三日午  
前ニ於ケル  
情況

## ●九月三日午前ニ於ケル情況

獨立騎兵隊長ハ前述ヘタル如ク各々區署ヲナシ彼我共ニ大機附近ヨリ善波峠附近ニ亘ル線ニ於テ處々ニ小衝突ヲ爲スノミニテ敵モ決意前進スルコトナク我モ亦突破シテ猛進スルノ機會ナク互ニ斥候ヲ以テ騎幕中ニ潜入センコトヲ勉メツ、アリ

今朝拂曉差遣シタル我將校斥候ハ幸ヒニモ敵騎幕内ニ潜入シ目的ノ方向ヲ搜索中ナリ

枝隊本隊ノ諸隊ハ昨夜ノ命令ノ如ク運動シ左縱隊ノ前衛ハ午前十時其先頭ヲ以テ本鄉村東端ニ右縱隊ノ前衛ハ其先頭ヲ以テ深谷西南方

約千米ノ十字路ニ達ス

此時枝隊長ハ本隊ノ先頭ニアリテ左ノ情情ニ接ス

關本及ビ小田原附近ニアル敵兵ハ嚴重ナル前哨ヲ配布シテ停止シ更ニ前進ノ模様ナシ

問 枝隊長ハ如何ニ決心スルヤ

答 兼テ計畫ノ如ク先ヅ用田附近ニ在ツテ軍ノ相摸平原ニ進出スルヲ掩蔽セントス之レカ爲メ敵ハ前進ノ模様ナキヲ以テ枝隊モ亦夕河川防禦準備陣ノ姿勢ニ在ツテ以テ今日ハ用田附近ニ宿營セントス



第七問

枝隊長ハ宿營ノ爲メ如何ナル順序ヲ以テ如何ナル處置ヲナスヤ

行軍ヨリ宿營ニ移ル時ノ處置順序

完全ナル宿營命令ヲ下シタル後其命令ニ準シテ警戒隊ガ警戒配備ヲナス時ハ徒ラニ宿營ヲ遅緩ナラシムルヲ以テ宿營準備ト同時ニ警戒隊ハ警戒配布ヲ取ラシムル爲メ枝隊長ハ宿營ニ決スルヤ先ツ第二聯隊長ニ左ノ如ク警戒ニ關スル要旨ノミヲ命シ警戒ノ區署ニ就カシム

一、敵狀

二、貴官ハ第一大隊ノ二中隊ヲ以テ前衛ヲ増加シ本郷村附近ニ宿營シ戸田、大神方向ニ對シ警戒スヘシ但シ戸田ノ渡場ハ一部隊ヲ以テ占領スルヲ要ス

岡田渡場ヨリ以北ハ第一聯隊ヲシテ監視セシムル筈ナリ

第二大隊ヨリ一部隊ヲ瀬郷村附近ニ派遣シテ中ノ瀬方向ニ對シ警戒セシムル筈ナリ

三、命令受領者ヲ用田村東端ニ出スヘシ

之レト同時ニ副官ヲシテ左縱隊ノ本隊ニハ停止ヲ命シ且ツ各隊ノ命令受領者ヲ用田村東端ニ招集セシム

又、副官ヲシテ第一聯隊長ニ左ノ如ク警戒ニ關スル要旨ノミヲ傳達セシメ警戒ノ區署ニ就カシム

二、敵狀

二、第一聯隊ヨリ一部隊ヲ杉久保附近ニ派遣シ厚木方向ニ對シ警戒セシムヘシ

但シ厚木橋梁ハ依然一部隊ヲ以テ占領シ社家、岡田ノ渡場ハ若干ノ監視兵ヲ派遣スルヲ要ス



三、爾他ノ諸隊ハ吉岡東方ニ開進セシメ命令受領者ヲ用田東端ニ出  
 七  
 此ノ如クシテ枝隊長ハ續テ前進シ宿營ニ關シ概畧ノ偵察ヲナシ此偵  
 察ヲ終ル頃ニハ既ニ各隊ノ命令受領者モ既ニ集リアル時刻ナレハ此  
 ニ於テ枝隊長ハ各隊命令受領者ニ左ノ完全ナル宿營命令ヲ口達シテ  
 筆記セシム

枝隊命令

九月三日午前十時三十分  
 用田村東端ニ於テ

- 一、關本及ゼ小田原附近ニアル敵ハ停止シテ前進ノ模様ナシ  
 我獨立騎兵ハ善波峠ヨリ平塚ニ亘ル線ニ於テ敵ノ騎兵ト相觸接シ  
 アリ
- 二、枝隊ハ用田村及ヒ其附近ニ宿營セントス

宿營命令  
 (狹舍營)

- 三、前衛ハ本鄉村附近ニ宿營シ戸田、大神方向ニ對シ警戒スヘシ但シ戸  
 田ノ渡場ハ一部隊ヲ以テ之ヲ占領スヘシ
- 四、第二聯隊第二大隊ヨリ一部隊ヲ瀨鄉村附近ニ派遣シ中ノ瀨方向ノ  
 警戒ニ任セシムヘシ
- 五、第一聯隊ヨリ一部隊ヲ杉久保附近ニ派遣シ厚木方向ニ對シ警戒セ  
 シムベシ  
 但シ厚木橋梁ハ一部隊ヲ以テ占領シ社家、岡田等ノ渡場ニハ若干ノ  
 監視兵ヲ派遣スルヲ要ス
- 六、爾餘ノ諸隊ハ左ノ如ク舍營スヘシ
  - 步兵第一聯隊 用田、吉岡
  - 步兵第二聯隊 第二大隊
  - 工兵第一中隊ノ一小隊 宮原村



砲兵第四中隊及ヒ第三大隊  
衛生隊二分一  
葛原 菖蒲 澤

用田舎營司令官ハ大佐某トス

警急大集合所ハ用田南方畑地トス

七、宿舎給養トス

八、輜重第一梯隊ハ岡津柏尾間ニ同第二梯隊ハ程ヶ谷芝生間ニ宿營ス

ヘシ

九、予ハ用田村ニアリ

午後九時命令受領者ヲ出セ

少將 某

〔獨立騎兵隊長ニハ枝隊ノ現況ヲ通報ス

宿營命令ニ  
就キ説明注  
意

前記宿營命令ハ敵ニ近ヅキタル場合ニシテ兵隊ハ成ル可ク集團宿營  
ヲナスモノ即チ狹舎營ヲ命ズルモノナリ前記命令文ニ關スル説明注  
意左ノ如シ

○宿營地ノ配布ハ戰鬪展開ノ便ヲ主トシ舎營地廣袤ト宿營人馬比例  
ノ願慮ハ第二トセリ是レ敵狀ノ願慮ヲ要スル時ノ舎營ニ在ツテハ  
免レサル所ナリ

○警戒ハ一ツノ前哨線ヲ設クルトキハ其正面過廣ニシテ指揮不便ナ  
ル故野外要務令第百七ニ示ス如ク前哨ヲ地區ニ從ツテ數部トナセ  
リ

○砲兵、衛生隊ノ如キハ歩兵ノ掩護下ニアラシムル爲メ宿營地中敵ノ  
反對方位ニ宿營セシメタリ



○各村ニ於テ其地高級古參ノ者カ舍營司令官トナルハ勿論ナリ但シ用田ニ於テ高級古參ノ者ハ枝隊長ナレトモ枝隊長ハ作戰上ノ配慮多キヲ以テ次級者第一聯隊長大佐某ヲ以テ舍營司令官トス

○目下敵ハ前進セサル如キ情況ナレトモ何時前進シ來リ警急集合ヲ要スルヤモ知レス故ニ用田南方畑地ヲ以テ大警急集合所トナシ置ケバ此點ハ四方ヨリ集合スルニ便利ナリ殊ニ又此點ハ敵ガ田村下流ヨリ渡河シ來ル場合ニハ之レニ向ツテ運動スル爲メ道路ノ都合宜シクシテ便ナリ

○本日ノ宿營地ハ富裕ト云フニアラス故ニ尋常ナレハ宿舍給養ハ難シ然レトモ幸ヒニ設營先發官ノ準備ニ由テ宿舍給養ヲナシ得ルモノトス

○獨立騎兵ハ昨夜命令セシ如ク前任務ヲ繼續セシムルヲ以テ足レル

行軍ヨリ駐  
軍ニ就ク爲  
メ前衛司令  
官ノ處置順  
序ヨリ前  
哨配佈  
前衛ノ宿營

ガ故ニ別ニ命令セス但シ騎兵隊長ノ動作上、枝隊ノ現況ハ大ニ參考トナルモノナルヲ以テ之レヲ通報スルハ必要ナリ

問 第二聯隊長ハ枝隊長ヨリ警戒ニ關スル所要ノ命令ヲ受ケタル後如何ナル順序ヲ以テ如何ナル處置ヲナスヤ

答 第二聯隊長ハ前記ノ如ク枝隊長ヨリ行進中警戒ニ關スル所要ノ命令ヲ受クルヤ本隊中ニアル第三第四中隊ニハ本鄉村東端ニ前進スヘキヲ命ジ而シテ直チニ第一大隊長ノ處ニ至リ左ノ口達ヲ爲ス

一、關本及ヒ小田原附近ニアル敵ハ停止シテ前進ノ模様ナシ我獨立騎兵ハ善波峠ヨリ平塚ニ亘ル線ニ於テ敵ノ騎兵ト相觸接



シアリ

第四中隊ヨリ中河内村附近ニ、第一聯隊ヨリ杉久保附近ニ、第二聯隊第二大隊ヨリ瀬郷村附近ニ、各一部隊ヲ出シ警戒スル筈ナリ

二、貴官ハ歩兵第一、第二中隊及ヒ騎兵一小隊(二分隊欠ク)ヲ以テ前哨ニ任シ本郷村西部附近ニ位置シ門澤橋ヨリ倉見村西北部三叉路ニ亘ル線ヲ警戒スヘシ殊ニ中野村方向ヲ搜索スヘシ

但シ門澤橋西方ノ渡場ヲ一部隊ヲ以テ占領スルヲ要ス

次ギニ第四中隊ニ命シ一ツノ獨立下士哨ヲ中河内村東本覺寺附近ニ出シ右側ノ警戒ニ任セシメ且ツ第一聯隊ノ前哨ト連絡セシム

前衛命令

第一大長ハ右ノ命令ニ接シ警戒ノ區署ニ就クナリ此クノ如クスル内ニ枝隊長ガ午前十時三十分用田東端ニ於テ下シタル完全ナル宿營命令ハ前衛司令官即ハチ第二聯隊長ノ許ニ到着スルナラン

此ニ於テ始メテ左ノ完全ナル前衛命令ガ下サル、ナリ即ハチ左ノ如シ

前衛命令

九月三日午前十一時三十分 本郷村東部ニ於テ

- 一、關本及ヒ小田原附近ニアル敵ハ停止シテ前進ノ模様ナシ
- 我獨立騎兵ハ善波峠ヨリ平塚ニ亘ル線ニ於テ敵ノ騎兵ト相觸接シアリ
- 瀬郷村杉久保村ニハ枝隊本隊ヨリ差遣セラレタル前哨部隊アリ
- 枝隊本隊ハ用田及ヒ其附近ニ宿營ス
- 二、前衛ハ本郷村東部ニ宿營セントス



- 三、第一大隊長少佐某ハ步兵第一第二中隊騎兵一小隊二分隊欠クヲ以テ前哨ニ任シ本郷村西部附近ニ在ツテ門澤橋ヨリ倉見村西北部三又路ニ亘ル線ヲ警戒スヘシ
  - 但シ門澤橋西方ノ渡場ハ一部隊ヲ以テ占領スルヲ要ス中野村方向ヲ搜索スヘシ
  - 四、第四中隊ヨリ獨立下士哨ヲ中河内村東方本覺寺附近ニ派遣シ右側ノ警戒ニ任シ且ツ杉久保前哨部隊トノ連絡ニ任ゼシムヘシ
  - 五、前衛本隊ハ本郷村東方ニ舍營スヘシ
  - 警急集合所ハ本郷村中部八幡祠ノ東方トス
  - 六、宿舍給養トス
  - 七、余ハ本郷村東部ニアリ
- 午後九時命令受領者ヲ出セ

前衛司令官署名

此命令ハ前哨部隊ニハ筆記シテ送付シ爾他ノ諸隊ニハ命令受領者ヲシテ筆記セシム

河川防禦ノ準備陣ニ關スル説明  
 (障礙物ノ後方ニ於ケル準備陣)  
 第三篇河川戰闘ノ條參照

河川防禦ノ要領ハ既ニ第三篇ニ於テ説明セシガ今ヤ枝隊ノ作戰上河川防禦ノ原則ヲ研究スル時機トナレリ此ニ之レヲ研究シ以テ河川防禦ノ一例ヲ示サントス

抑モ河川ナル者ハ堅固ナル防禦障礙物ノ如キ感アレトモ絶對的ニ敵ヲ拒支シ得ヘキ障礙物ニアラス何トナレハ河川ハ延長ニシテ此延長線ニ對シ限リアル兵力ヲ以テ悉ク守備セシメ以テ敵ノ渡河ヲ妨ケントスルハ得テ爲ス可カラス諺ニ曰ク全線ヲ守ラントセハ一點ヲモ守ル能ハス實ニ全線ヲ守備セン爲メ廣



延ナル線ニ兵力ヲ分散セハ到ル所薄弱トナリ遂ニ一點モ堅固ナル所ナク敵ガ何レカノ點ニ集團セル兵力ヲ持チ來レハ直チニ擊破セラル、ナリ故ニ防者ガ河川ヲ利用スルハ左ノ効力ヲ得ンガ爲メナリ

一、敵ヲシテ遠ク我守備區域外ヨリ渡河セン爲メ迂回ヲ爲スノ時間ヲ空費セシムルコト即チ防者ハ之レニ由テ時間ノ猶豫ヲ得ルコト

二、敵ガ河川ノ爲メニ兵力ヲ分離シ來ルヲ待チ之レヲ逆撃シテ再ビ河川ニ壓迫スルコト所謂敵ノ半渡ヲ撃ツナリ

枝隊ハ今ヤ馬入川ヲ利用シ之レニ據テ軍ノ相摸平原ニ進出スルヲ掩護セントスルモノナリ然リ而シテ敵ガ馬入川ヲ渡河スルヲ拒支セントセバ少クモ厚木ヨリ下流ニ於ケル諸橋梁及ヒ諸渡渉點ヲ守備シ尙ホ其上ニ敵ハ何レノ點ニ架橋スルヤモ知レサルヲ以テ橋梁及ヒ渡渉點外ノ地點ニモ亦々監視警戒部隊ヲ配備セサルヘカラス此ノ如キ事ハ枝隊ノ兵力ヲ以テ到底爲シ得ヘキモノニアラス強テ之レヲ爲セハ各點ニ於ケル守備兵ハ僅カニ一二中隊ヲ配シ得ルニ過キサルヘシ此僅少部隊ガ渡河點ヲ守備シアアルモ何ノ役ニモ立たズ敵ハ直チニ擊

準備陣

破シテ渡河シ得ルナリ又一歩ヲ譲リ強大ナル兵力ヲ以テ渡河點ヲ守備シ敵ガ容易ニ擊破シテ渡河シ得ズトセンカ敵ハ正面ニ牽制或ハ掩護隊ヲ備ヘ主力ハ厚木ヨリ上流何レノ點ナリトモ迂回シテ渡河シ來ル可シ然ル時又之レヲ妨止セントセハ我ハ上依智ノ方向ニモ守兵ヲ備ヘサル可カラス此クノ如クシテ遂ニ實際限チ知ル能ハス極端ニ云ヘハ遂ニ河川ノ全長一連ニ守兵ヲ置カネハ安心デキサルコトニ至ルヘシ  
此ニ於テ枝隊ハ此河川ヲ利用スルニハ所謂準備陣ヲ以テ敵ガ河川ノ何レノ點ヨリ渡河シ來ルモ其時ニ於テ全力ヲ以テ之レニ當ルノ決心ヲ以テ配備チナサル可カラス  
準備陣トハ何ソヤ是レ一ツニ待機陣地トモ云フモノニシテ兵力ヲ集結シテ機ノ至ルヲ待ツ爲メ準備ノ姿勢ヲ以テ位置シア爾陣地ヲ云フナリ  
夫レ戰鬪ノ要ハ常ニ兵力ヲ收結シテ指揮官ガ手中ニ掌握シアリテ何時ニテモ隨意ノ地點ニ向ヒ意圖ノ如ク兵力ヲ使用シ得ルニアリ若シ夫レ機ニ先ダチ無益ニ兵力ヲ展開スルトキハ一旦必要ノ點ニ所要ノ兵力ヲ向ハシメントスルモ



既ニ指揮官ノ意ノ如クナラス又々向ハシムヘキ兵力ナキニ至ルヘシ蓋シ兵力ノ使用ハ矢ヲ放ツ如ク一朝指揮官ノ手ヲ離ルレハ再ビ之レヲ復舊スルコト難ク假令ヘハ甲地ニ向フテ差遣シタル部隊ヲ直チニ又乙地ニ向ハシムル如キコトハ決シテ機ヲ失セス其運動ヲ實施シ得ル者ニアラス又假令ヘハ一旦甲隊長ニ三大隊ノ兵力ヲ委任シタル者ヲ後ニ至リテ再ビ其ノ内ノ一大隊ヲ取り返ス如キモ都合ヨク實施シ得ヘキコト少シ蓋シ甲隊長ハ既ニ三大隊ヲ各所要ノ點ニ用ヒアルヲ以テナリ

以上ノ如キ理由ナルヲ以テ敵ノ行進方向未ダ判然セサル間ハ一點ニ兵力ヲ纏メ置キ敵ノ來ルヘキ恐レアル方向並ニ地點ニハ監視兵ヲ配布シ愈々敵ノ向フ所ヲ知りタル後ニ於テ之ニ向ヒ兵力ヲ展開使用スヘキナリ

準備陣ノ性質此クノ如シ故ニ監視兵トハ最も速ニ通信交通シ得ヘキ方法ヲ取り報告ハ機ニ遅レス主力ノ運動ヲシテ適當ニ規畫セシムルヲ要ス

又準備陣ニ於テ指揮官ノ最も明斷ヲ要スルハ敵ノ主力ノ向フ所ヲ明察看破スルニアリ夫レ敵ハ必ラス一方ニ牽制隊ヲ出シ主力ノ向フ所ヲ我ニ秘セントス

ルハ常ナリ故ニ我若シ判斷ヲ誤リ敵ノ牽制ニ惑ハサレ之レニ向フテ直チニ動ク時ハ實ニ敵ノ術中ニ陥リタルモノナリ然レモ實際ニ於テ孰レガ牽制ナルカ孰レガ本攻ナルカハ實ニ判斷シ難キモノニシテ若シ指揮官ガ此機ニ於テ判斷ニ躊躇スル時ハ途ニ機ヲ失スルモノナリ故ニ準備陣ヲ以テ敵ニ對スルニ當リ指揮官タルモノハ此判斷ニ明ニシテ且ツ果斷ナルコトハ實ニ必須ノ要件ナリ

枝隊ガ準備陣ヲ以テ敵ノ馬入川渡河ヲ妨グヘキ配備ハ前ニ述べタル命令ニ由テ略ボ了解セラルヘシ即チ一旦關本及小田原附近ノ敵ガ馬入川ニ向ヒ前進ヲ起シ何時開戦ヲナスモ計ラレサル時機ニ至レハ用田及ヒ其附近ニ集團シアル兵隊ヲ用田南方畑地ニ集合シ厚木ヨリ上流諸渡河點ハ前命令ニ示セル如ク監視兵或ハ斥候ヲ以テ警戒ス其方法厚木橋梁及ヒ戸田渡場ノ如キ緊要ナル點ハ若干ノ抵抗力ヲ備フル步兵部隊ヲ以テ占領シ其他ハ若干ノ監視兵ヲ配付スルニ留メ又四ノ宮以南ノ如キ遠距離ハ騎兵ヲ以テ監視警戒セシム

此クノ如クシテ敵ヲ待チ敵ガ來ル方面ニ從ツテ枝隊ノ主力ハ適時運動ス爰ニ於テ然ラハ枝隊ノ主力ガ如何ナル情況、如何ナル時機ニ於テ運動ヲ起スヘキヤ



是レ前ニモ逃ヘタル如ク其判斷決心ノ最モ困難ナル所ナリ  
今假リニ敵ノ情況左ノ如クナリタルモノトスレハ枝隊長ノ決心困難ナルコト  
察スルニ足ルヘシ

一、敵ノ歩兵約一大隊戸田東端ニ展開シ砲兵ハ天満宮西北方附近ヨリ砲撃ス  
而シテ敵ノ歩兵ハ漸次増加スル如ク見ユ

二、馬入村附近ヨリハ我騎兵ヲ撃退シツ、敵ノ歩兵約一大隊前進ス其後方ニ  
ハ尙ホ縱隊ノ後綴スルアル如シ

此情報ニ由テ判斷スルニ戸田方面ガ主力ナルカ東海道方面ガ主力ナルカ未ダ  
判斷出來サルヘシ去リトテ無爲ニシテ經過スルトキハ枝隊長ハ兩方面ヨリ敵ノ  
壓迫ヲ受クルニ至ルヘシ何レカニ我主力ノ向フ所ヲ定メ計畫スル所ナカルヘ  
カラス即チ此場合ニ於テ敵狀搜索ハ最モ急務ナルヘシ故ニ枝隊長ハ左ノ如ク  
處置スルナラン

一、第二聯隊第一大隊及ヒ砲兵一中隊ヲ展開シ先ツ戸田方向ノ敵ニ對シ猛烈  
ニ火力ヲ集注シ彼ノ全兵力ヲ展開セシメ之レヲ偵察スルコトヲ勉ム

二、東海道方面ハ今暫ク其搜索ヲ騎兵ニ一任シ爾後ノ情況ヲ待ツ  
此ノ如クシテ枝隊長ハ更ニ情報ヲ得タリ

一、戸田方面ノ敵ハ其戰線約二大隊正面ニ等シクナルマテ續々兵力ヲ展開セ  
センガ其後ハ兵力ノ戰線ニ加ハルヲ見ズ

二、東海道方面ノ敵ハ馬入及一ノ宮附近ノ二ヶ所ヨリ續々渡河ヲ始メタリ  
此ニ於テ枝隊長ハ斷然東海道方面ニ向ツテ攻勢ヲ取ルニ決心セサルヘカラス是  
レ實ニ決心ノ好時機ニシテ此期ヲ誤リ今尙ホ躊躇スル時ハ遂ニ東海道方面ノ  
敵ハ無事ニ渡河ヲ終リ最早敵ノ中渡ヲ撃ツト能ハズ反ツテ敵ニ壓迫セララルハ  
所トナルヘシ此ノ如キ時期ニ於ケル決心コソ實ニ準備陣ニアル隊長ノ最モ手  
腕才能ヲ現ハスモノナリ即チ枝隊長ハ左ノ處置ヲナスヘシ

歩兵一大隊、騎兵一小隊、砲兵一中隊ヲ以テ戸田方面ノ敵ニ對セシメ殘餘ノ  
主力ハ悉ク提ゲテ中ノ瀾ニ向ヒ攻勢ヲ取ル



以上ハ序ヲ以テ河川防禦ノ原則ヲ概畧研究シタルナリ今ヨリ更ニ舊ニ復シ元來ノ情況ニ引キ繼キ研究セン

九月三日午後ニ於ケル情況

●九月三日午後ニ於ケル情況

九月三日午後三時ニ至リ我獨立騎兵ト相對シアル敵騎ハ前哨ヲ配布シテ全ク駐止スルニ決心シタルモノ、如ク所々ニ騎哨ヲ配布セリ我獨立騎兵モ亦夕前哨ヲ配布シ伊勢原方向ニ於テハ白根村ヨリ矢崎村附近ニ亘ル線ヲ警戒シ東海道方面ニ於テハ平塚ヨリ中原上村附近ニ亘ル線ヲ警戒ス而シテ北大繩村、豊田本郷村附近ハ斥候ヲ以テ警戒シアリ

此ニ於テ所謂混成前哨ノ形ヲナセリ即チ騎兵ハ第一線ノ警戒ニ任シ歩

兵ハ第二線ニ在ツテ此掩護ヲ受ケツ、唯タ諸渡河點ノ如キ諸要點ニ若干ノ監視兵ヲ配布シアルノミ夜間ニ至レハ騎兵ハ敵ト接觸ヲ保持スル爲メ尙ホ伊勢原平塚附近ニ停止スルモ其警戒ハ晝間ノ如クナラス唯ダ自衛ノミノ目的ヲ以テ宿營スルナラン此ニ於テ第二線ニアル歩兵ハ專バラ警戒ヲ擔任シ各要點ノ監視兵ヲ増シ後援タル小哨ヲモ派遣スヘキナリ

今朝敵ノ騎幕内ニ潜入シタル將校斥候ノ報告ニヨレハ關本及ヒ川村山北附近ニアリシ敵ハ午後ニ至リ更ニ前進シ千村附近ヲ占領セリ其兵力約歩兵一聯隊ニシテ是レニ若干ノ特科兵種附屬シアルモノ、如シ又小田原ニアリシ敵ハ午後ニ至リ前川附近ニ前進セリ土民ノ言ニ依レハ熱海ニハ數多ノ砲兵アルモノ、如シ



第八問

右ノ情況ニ關シ枝隊長ハ如何ニ敵狀ヲ判斷スルヤ

判決

敵ハ急ニ前進スルコトナク千村及ヒ前川附近ニ於テ後續部隊ガ箱根山脈ヲ超ヘテ酒匂川河孟ニ集合スルヲ掩護スルモノナルヘシ

理由

昨日來ノ敵狀ニ由テ見ルニ敵ハ急速ニ前進スルコトナカルヘシ何トナレハ若シ敵ガ前進ヲ急グモノトスレハ何スレゾ關本及小田原附近ニ停止スルヲ要セン若シ敵ガ急進ヲ希望スルニモ拘ハラス關本小田原附近ニ停止シタルモノトセハ途中何等カノ故障ヲ生ジタルナルヘシ

九月三日午  
後ニ於ケル  
枝隊長ノ敵  
狀判斷

其午後ニ至リ千村、前川ノ線ニ前進シタルヲ以テ見レハ左ノ件ヲ判斷スルヲ得ヘシ

一、敵ハ先ツ關本、小田原附近ニ一部隊ヲ出シ之レニ由テ足柄、箱根若クハ熱海街道ノ難路ヲ超ユルヲ掩護シ九月三日午後ニ至リ稍々兵力ノ集結セルヲ以テ更ニ前進シ千村、前川ノ線ヲ占領シ更ニ後續部隊ノ酒匂川ニ集合スルヲ掩護スルコト

二、最初ヨリ千村、前川ノ線ヲ占ムル考ヘナリシモ途中故障ノ爲メ縦隊ガ分離シ爲メニ午後マデ其故障ノ爲メ遅レタル兵隊ヲ待チタルコト

地形及ヒ敵ノ有利トシテ取ルベキ畫策上ヨリ考案スルモ右判斷ノ如キハ實際アリ得ヘキコトナリ

夫レ一般ノ地形ヲ看察スレハ駿河灣ニ上陸セル敵ガ相模平原ニ進出



セントスルニハ箱根大山脈アリ此山脈ハ道路殊ニ不良野砲ヲ通ゼン  
トスル如キハ殊ニ困難ナリ到底大兵ヲ以テ一時ニ此山脈ヲ超ユルコ  
ト能ハス先ツ一部隊ヲ以テ各隘路口ヲ占領シ此掩護ニ由テ使用シ得  
ヘキ諸道路ヨリ諸兵ヲ分進セシメ更ニ掩護隊ヲ酒匂川左岸ニ進メ此  
掩護ニ由テ此河孟ニ一先ツ全力ヲ集團シ而シテ一舉シテ東進ヲ企ツ  
ヘキナリ土民ノ言ニ云ヘル熱海ニ砲兵アリ云々ハ或ハ砲兵ノ大部ヲ  
熱海街道ヨリ前進セシメツ、アルヤヲ察セラル(箱根峠ハ野砲通セサ  
ル故)果シテ然ラハ敵ハ目下酒匂川河孟ニ向ツテ分進集合中ナルコト  
ヲ知ルヘキナリ是レ實際アリ得ヘキコトナリ  
其酒匂川左岸ニ於テ同河孟ニ於ケル集合ヲ掩護スヘキ陣地ハ目下敵  
カ前進セル千村前川ノ線ヲ適當トスルナリ故ニ敵ハ此掩護ニ由テ目  
下酒匂川河孟ニ集合ヲ企テツ、アルコト明カナリ

情報ニ由テ見レハ敵ノ兵力モ畧ボ我ト同等ナル如シ我若シ兵力優勢  
ナレハ斷然獨斷ヲ以テ前進シ敵ノ集合ヲ終ラサルニ先ダチ千村附近  
ノ敵ヲ擊破スルコトモ亦タ一策ナレトモ現在ノ兵力ニテハ到底堅固  
ナル敵ノ陣地ヲ攻撃スルコト能ハス暫ラク現在ノ姿勢ヲ以テ任務ヲ  
全フスルノ外ナシ

但シ又タ絶對的ニ前進攻撃スルモ勝算ナキト云フ程ニモアラサルヲ  
以テ幸ヒニ戰勝ヲ得バ後來軍ノ爲メニハ非常ノ幸福ナリ之レニ反シ  
一旦敗ヲ取リタルトキハ獨斷ノ責ヲ完フスル能ハス任務ニ負ク譯ナ  
リ故ニ此情況ハ速ニ防禦總督ニ報告シ訓令ヲ抑グコト必要ナラン

獨斷專行ニ  
關スル注意

右ノ如キ情況ニ於テ獨斷專行ハ大ニ研究スヘキモノトス即ハチ技隊長ノ敵  
情判斷ノ如キ情況ニ於テ若シ功名心ニ走ル隊長ナラハ或ハ獨斷ヲ以テ前進  
スルヤモ知レス然シ之レ實ニ忌ムヘキコトトス蓋シ前陣敵情判斷ニ於テモ



論セシ如ク一旦敗テ取ルトキハ全ク任務ヲ達スル能ハス後來軍ノ作戰ニ大關係ヲ及ホセハナリ今日ノ作戰ニ於テハ徒ラニ功名心ニ驅ラレ任務ヲ忘ルハコトナキニ深ク注意スヘキナリ  
尙ホ獨斷專行ニ關スル精細ハ補遺ノ部ニ於テ詳論スル所アルベシ

補遺ノ部參照  
枝隊長ノ電報報告

### 枝隊長ノ防禦總督ニ向ツテ發スル電報報告

- 一、昨日來關本、小田原附近ニ停止シアリシ敵ハ本日午後ヨリ運動ヲ起シ約歩兵一聯隊ヨリナル諸兵連合ノ敵ノ一枝隊ハ千村ヲ又歩兵約一大隊ハ前川ヲ占領セリ
- 馬入川ノ對岸ニハ稍優勢ナル敵ノ騎兵部隊アリ
- 土人ハ本日小田原ニ砲兵到着セリト云フ
- 二、小官ハ目下馬入川ノ線ヲ監視警戒シアリ

- 三、敵ハ千村、前川ノ線ヲ占領シ後續團隊ノ酒匂川河孟ニ集合スルヲ掩護セントスル者ニアラズヤト小官ハ推察ス
- 四、小官ハ明日前進シテ千村附近ノ敵ヲ攻撃スルノ許可ヲ得ンコトヲ希望ス

此報告ハ藤澤ヨリ打電ス

九月三日午後九時ニ於ケル情況

### ●九月三日午後九時ニ於ケル情況

- 東京灣防禦總督ヨリ左ノ電報到着ス
- 一、貴官ノ報告ハ正ニ受領ス
- 二、貴官ヲ増援スル爲メ委細ハ第一師團長ニ訓令セリ爾後貴官ハ第一師團長ノ指揮下ニ復ス



●同時到着セル第一師團長ノ電報訓令ノ要旨左ノ如シ、

一、軍ハ兩三日中ニ相摸平原ニ進出スル筈ナリ

二、余ハ貴官ヲ増加シ軍ノ馬入川渡河ヲ容易ナラシムル爲メ馬入川右岸ノ地區ヲ占領セントスルノ希望ヲ有ス

三、貴官ノ指揮ニ屬スル爲メ歩兵第二聯隊第三大隊ハ今夜九時迄ニ鐵道ニ依テ藤澤ニ到着セシム

四、貴官ハ成シ得レバ、(以下電信不通トナリタル爲メ不明)

●先キニ二子村ニ残留セシ架橋隊長ヨリ左ノ報告到着ス

一、架橋隊ハ徵發材料ヲ以テ多摩川架橋ヲ終リ一分隊ヲ軍橋監視ノ爲メ殘置シ殘餘ハ悉皆只今下鶴間ニ着セリ

二、架橋隊ハ本日下鶴間ニ宿營シ後命ヲ待タントス

●馬入川監視哨ヨリ左ノ報告アリ

馬入川ハ漸次増水ノ兆アリ戸田渡場ハ目下已ニ徒涉シ能ハザルニ至ル

●獨立騎兵ヨリ左ノ報告アリ

前川附近ニハ午後遅ク歩砲兵到着セルモノ、如ク其歩兵ハ現在ニ於テ少ナクモ二大隊ヲ下ラザル如シ

野砲兵ノ多數ハ本日午後小田原ニ到着セリ

### 第九問

九月三日午後九時以後ニ於ケル枝隊長ノ決心處置



敵の攻撃スル  
目的ヲ以テ  
前進スル  
時ノ決心處  
置

### 判決

枝隊ハ明日攻撃ノ目的ヲ以テ前進セントス

### 理由

敵狀ニ就テハ前ニ判斷シタル敵狀判斷ノ如ク殊ニ敵ノ砲兵ガ熱海街道ヨリ集合シツ、アルコトハ午前ニ於テハ土民ノ言ニテ不確實ナリシガ午後九時ニ於ケル獨立騎兵ノ報告ニ依テ確實トナレリ我任務ト兵力ガ之レヲ許セバ此ノ際攻撃ヲ試ムルモ實ニ亦タ一策タリ今ヤ到着セシ電報訓令ハ半バ電信不通ニシテ其全文ヲ知ル能ハズト雖トモ第一師團長ハ軍ノ馬入川渡河ヲ容易ナラシムル爲メ我枝隊ヲ増加シ馬入川右岸ノ地區ヲ占領スルノ希望ヲ有スルハ明瞭ナリ殊ニ歩兵一大隊ハ今夜鐵道輸送ニ依テ藤澤ニ到着スルヲ以テ我兵力上ニ就テハ確ニ敵ヨリ優勢ヲ占ムヘク又師團長ノ訓令第四項ニ於テ貴官ハ成シ

得レバ、、、(以下電信不通ヲ以テ察スレハ師團長ハ先ツ一部ヲ鐵道ニ由テ差遣シ殘餘ハ自ラ引卒シテ來援スルモノナルヘク其師團長ノ到着前ニ於テ情況上成シ得レハ敵ニ向ツテ攻勢ヲ取ルモ妨ゲナキノ意ヲ記シタルナラン若シ果シテ然ラハ明日攻勢ニ轉スルモ是レ又任務ニ負クコトナシ

乃ハチ今ヤ斷然攻勢前進ヲナスベキナリ此前進ヲナスニ就テハ前川附近ノ敵ニ付キ一考セサルヘカラス枝隊ガ千村附近ノ敵ヲ攻撃スルニ當リ前川附近ノ敵ハ友軍ヲ救フ爲メ必ラズ動クナラン然ル時ハ我側面危險ナリ我攻撃ノ目的ヲ完全ニ達セシ爲メニハ前川附近ノ敵ヲ牽制シ置カサルヘカラス而シテ此敵ハ情報ニヨレハ少クモ二大隊ヲ下ラサル如シ故ニ此牽制ニ任ズル部隊ハ最小限一大隊ヲ使用スルヲ要シ幸ヒ本夜到着スヘキ第二聯隊第三大隊ヲ使用スルヲ適當トス



又馬入川増水ノ爲メ戸田渡場ハ渡渉シ能ハス然ル時ハ是非共厚木ニ迂回セザルヘカラス今ヤ幸ニ架橋隊ハ下鶴間ニ到着セルヲ以テ之レヲ招致シ戸田ニ架橋セシムルモ増水ノ爲メ水流ハ急トナリ架橋困難ニシテ迅速ニ架橋シ能ハサルヘシ厚木ニハ不完全ナガラ橋梁存在シアリ故ニ多少ノ迂回トナレモ之レヲ利用スルコト反ツテ捷路トス而シテ此橋梁ヲ完全ニ修理セシムル爲メニハ架橋隊ヲシテ明早朝ヨリ之レニ從事セシムルヲ要ス

以上ノ理由ニヨリ左ノ處置ヲ爲ス

- 一、本夜到着スヘキ歩兵第二聯隊第三大隊ヲ以テ左側枝隊ト爲シ前川附近ノ敵ヲ東海道方向ニ繫留セシム
- 二、歩兵第二聯隊第一大隊騎兵一小隊(一分隊欠ク)砲兵第六中隊、工兵第二中隊ノ一小隊ヲ以テ前衛トシ厚木伊勢原ヲ經テ千村ニ向ヒ

近キ敵ニ向  
ツテ前進ス  
ル時ノ行軍  
命令

前進セシム

- 三、架橋隊ハ明早朝厚木橋梁ノ修理ニ任ゼシム
- 四、輻重第一梯隊ハ大谷、早川間ニ、全第二梯隊ハ上和田ニ前進セシム

以上ハ決心處置ニ基キ各隊ニ命令スベキ命令左ノ如シ

混成第一旅團命令

九月三日午後九時  
用田旅團司令部ニ於テ

- 一、歩兵約一聯隊ヨリナル敵ノ一枝隊ハ千村ヲ占領シ又少クモ歩兵二大隊(若干ノ砲兵ヲ有ス)ヲ下ラザル敵ハ前川附近ニアリ小田原ニハ數多ノ砲兵到着シアリ
- 獨立騎兵ハ明日依然大山街道附近ニアリテ敵ト觸接ヲ保持スル筈ナリ



- 二、旅團ハ厚木ヲ經テ大山街道上ヲ敵ニ向ツテ前進セントス
- 三、前衛ハ午前七時出發社家、厚木ヲ經テ大山街道上ヲ千村附近ノ敵ニ向ツテ前進スベシ
- 四、左側支隊ハ午前五時藤澤出發、東海道ヲ前川ニ向テ前進シ此方面ノ敵ヲ東海道上ニ繫留シ旅團ノ左側ヲ掩護ス可シ  
平塚附近ヨリ一部ノ騎兵ヲ以テ前川方向ヲ搜索セシムル等ナリ此騎兵ハ左側支隊長ノ指揮ニ屬ス
- 五、本隊ハ午前七時五十分杉久保村南方(定國寺東方)橋梁ヲ先頭トシ行軍序列ニ從ツテ途上縱隊ニ集合スヘシ  
但シ在杉久保ノ諸隊ハ本隊ノ通過ヲ待チ同所ニ於テ行軍序列ニ入ルヘシ
- 六、本隊ノ大行李ハ午前八時ヨリ用田南方畑地ニ集合シ二千米突ノ距

- 離ヲ以テ本隊ニ跟隨スヘシ
- 前衛及ビ在杉久保諸隊ノ大行李ハ杉久保村南方ニ於テ本隊大行李ニ至ルヲ待チテ之ニ合スヘシ
- 七、輜重第一梯隊ハ正午迄ニ大谷早川間ニ、同第二梯隊ハ午後二時迄ニ上和田ヲ先頭トシ丸子街道上ニ位置スヘシ
  - 八、余ハ本隊ノ先頭ニ在ツテ行進ス

## 旅團長署名

此命令ハ各隊ノ命令受領者ヲシテ筆記セシム  
但シ左側支隊ニハ筆記シテ一名ノ將校ヲシテ傳達セシム是レ左側支隊長ハ本日東京ヨリ着シタルモノナレハ面談シテ東京ノ情況ヲ承知シ以テ參考ニ供シ且ツ現在旅團長ノ計畫ノ大要ヲ告知セシム



架橋隊ニハ左ノ命令ヲ傳騎ヲ以テ送達ス

混成第一旅團命令 九月三日午後九時  
用田旅團司令部ニテ

- 一、敵ハ千村及ビ前川附近ヲ占領ス
- 二、旅團ハ明日厚木ヲ經テ千村附近ノ敵ニ向ツテ大山街道ヲ前進セシトス
- 三、架橋隊ハ明日厚木ニ前進シ遅クモ午前八時三十分迄ニ渡河ノ爲メニ所要ノ設備ヲナスヘシ
- 四、余ハ本隊ノ先頭ニ在リテ行進ス

少將某

騎兵隊長ニ  
與フル訓令

獨立搜索騎兵隊長ニハ左ノ訓令ヲ與フ

獨立騎兵ニ與フル訓令 九月三日午後九時  
用田旅團司令部ニ於テ

一、旅團ハ明日午前七時前衛ヲ以テ門澤橋ヲ出發シ厚木ヲ經テ大山街道ヲ左側枝隊(歩兵一大隊)ハ午前五時藤澤出發東海道ヲ敵ニ向ヒ前進シ而シテ諸隊ガ馬入川右岸ニ進出スルハ多分午前八時三十分乃至九時三十分ノ間ニアルベシ

二、余ハ左側枝隊ヲシテ前川附近ノ敵ヲ東海道上方面ニ繫留セシメ時機ニ乘ジテ千村附近ノ敵ヲ攻撃スルノ企望ヲ有ス貴官ハ敵ト觸接ヲ有シ成ルヘク大山街道附近ヲ離ル、コトナク旅團ノ前進ヲ掩蔽シ已ムヲ得サレハ大山街道以南ノ地區ニ避クルヲ要ス

前川及ビ小田原附近ニ於ケル敵情ニ就テハ成ル可ク速ニ報告スヘシ之レガ爲メ南金目及ビ平塚方向ヨリ騎兵一部隊ヲ以テ搜索スルハ尤モ希望スル所ナリ而シテ平塚方向ニ使用スヘキ騎兵ハ後ニ至リ左側枝隊長ノ指揮下ニ入ラシムルヲ要ス



三、余ハ大山街道上ヲ行進スル旅團本隊ノ先頭ニアリ

旅團長署名

此訓令ハ報告ヲ持チ來リタル傳騎ヲシテ持チ歸ラシム

敵ニ近キ時  
ハ軍隊區分

### 軍隊區分

#### 獨立騎兵

司令官 少佐某

騎兵第一中隊(一小隊欠ク)

全 第二中隊(一小隊欠ク)

#### 左側枝隊

司令官 少佐某

步兵第二聯隊第三大隊

#### 前衛

司令官 大佐某

步兵第二聯隊第一大隊

騎兵一小隊(一分隊欠ク)

山砲兵第六中隊

工兵第二中隊ノ一小隊

本隊(全ク行軍序列)



- 騎兵一分隊
- 步兵第二聯隊第二大隊
- 砲兵第三大隊本部並第五中隊
- 野砲兵第四中隊
- 步兵第一聯隊
- 衛生隊二分一

九月三日午  
後一時於  
ケル諸命令

- 前陳ノ諸命令及ヒ軍隊區分ニ關シ左ニ若干説明セントス
- 架橋隊ニハ詳細ノ敵狀ヲ示ス必要ナキヲ以テ單簡ニ示セリ
- 厚木橋梁ハ野砲ノ通過ニ適セサルヲ以テ野砲ヲ渡河セシムル爲メ

並ニ軍隊區  
分ニ關スル  
説明注意

- ニハ該橋梁ヲ修理スルカ或ハ門橋ヲ構成スルカ等種々便宜ノ方法アルベシ又假令ヒ他兵ハ馬入橋梁ニ由テ通過シ得ルト雖トモ果シテ數多ノ人馬ヲ陸續通過セシメ得ルヤ否ヤモ確定セス故ニ架橋隊長ニハ渡河ノ爲メ所要ノ設備ヲナスヘシト命ジ以テ其方法ハ該隊長偵察ノ上便宜撰擇スルニ委セリ
- 近キ敵ニ向ツテ前進スル時ハ豫メ行進目標地點ヲ示ス能ハス唯ダ行進目標ハ敵ヲ以テ唯一トスルノミ故ニ命令第二項ニ於テ敵ニ向ツテ前進セントスト示セリ
- 厚木橋梁ニハ我守備兵モアリ故ニ馬入川左岸ノ地區ハ我警戒線内ニ等シキヲ以テ馬入橋梁迄デハ各隊ニ無益ノ行進ヲナサシメサル如ク捷路ヲ取ラシメタリ即チ前衛ハ社家ヲ經テ本隊ハ杉久保ヲ經テ前進シ在杉久保ノ兵隊ハ途中ニ於テ行軍序列ニ入ラシメタル如



○前衛出發時刻並ニ本隊ノ集合時間ハ距離ノ計算上前記命令通りノ時間ヲ以テセハ厚木梁橋ニ於テ恰モ都合ヨク行軍縱隊ヲ編成シ得ル見込ミナリ但シ行進ハ道路ノ景況ニ從フテモ差異ヲ生スヘキモノナル故萬一前衛ハ本隊間ニ適當ノ距離ヲ取ル能ハザル時ハ旅團長ハ本隊ノ先頭ニアル故其時所要ノ命令ヲ下シ行進ヲ規定スヘキナリ

故ニ爰ニ注意スヘキハ此行進ハ旅團長ガ本隊先頭ニアリテ自己ノ手中ニ縱隊ヲ掌握シアルヲ以テ何時ニテモ命令ヲ下シ得ルガ故ニ前記命令ノ如ク命令スルモ差支ナケレトモ若シ旅團長ガ本隊ヲ引率セズ假令ヘバ數縱隊ニ分チ各縱隊長ヲシテ縱隊ヲ引率セシムル時ノ如キハ旅團長自己ノ手中ニ於テ自由ニ干涉シ難キヲ以テ發程

時ハ行軍長經ト距離トヲ綿密ニ計算シ且ツ各縱隊合シテ一縱隊トナルヘキ地點並ニ時刻ヲ示サ、レハ衝突スルノ混雜ヲ引起スヘシ其指示法概ネ左ノ如シ

- 何隊ハ何時何地ニ於テ何隊ニ跟隨スヘシ
- 何隊ハ何時何地出發何地ニ於テ何隊ノ來ルヲ待チ之レニ跟隨スヘシ

○旅團ガ厚木ヲ經テ大山街道上ニ前進スル時ハ其退路モ亦タ大山街道上即チ下鶴間方向ニ取ルハ自然ナリ既ニ此ノ如ク退路ヲ變換スルノ必要アリトスレバ輻重ハ無論此退路上ニ移サ、ルヘカラス然レトモ九月三日ニ於ケル師團長ノ電報訓令(電信不通ニテ全文ハ了解セラレサレモ)ヲ察スレハ師團ハ増援トシテ前進シ來ル如ク推察セラル然ル時ハ多分大山街道ヲ前進スルナラン由ツテ其前進ヲ輻



重ガ妨害セザル爲メ暫ラク丸子街道ノ方向ニ位置セシム此ク爲シ  
置ク時ハ旅團トノ補充連絡ニモ不便ナク一朝不幸ニ際シ退却スル  
コトアルモ直チニ丸子街道上ニ退却セシメ得ヘク又要スレハ大山  
街道上ニモ移シ得ヘシ故ニ一先ツ大谷上和田ノ線ニ轉移セシムル  
コト、セリ

退路變換ノ事ニ就テハ尙ホ次キニ若干述ブル所アル可シ

○九月四日ノ爲メノ軍隊區分ハ左ノ願慮ヲ以テセリ

東海道上前川附近ニ於ケル敵ニ對スル願慮ヲ以テ左側枝隊ヲ設ケ  
タリ

前衛ハ敵ト衝突シ先ヅ威力偵察ヲ爲スノ必要ヲ感シ砲兵ヲ附シタ  
リ

○行軍序列中本隊ノ砲兵ハ時機ヲ失セズ前衛ヲ應援シ得ル爲メ先頭

第一篇軍隊  
區分ノ條參  
照

退路變換ノ  
注意

大隊ノ次ギニ行進セシメタリ

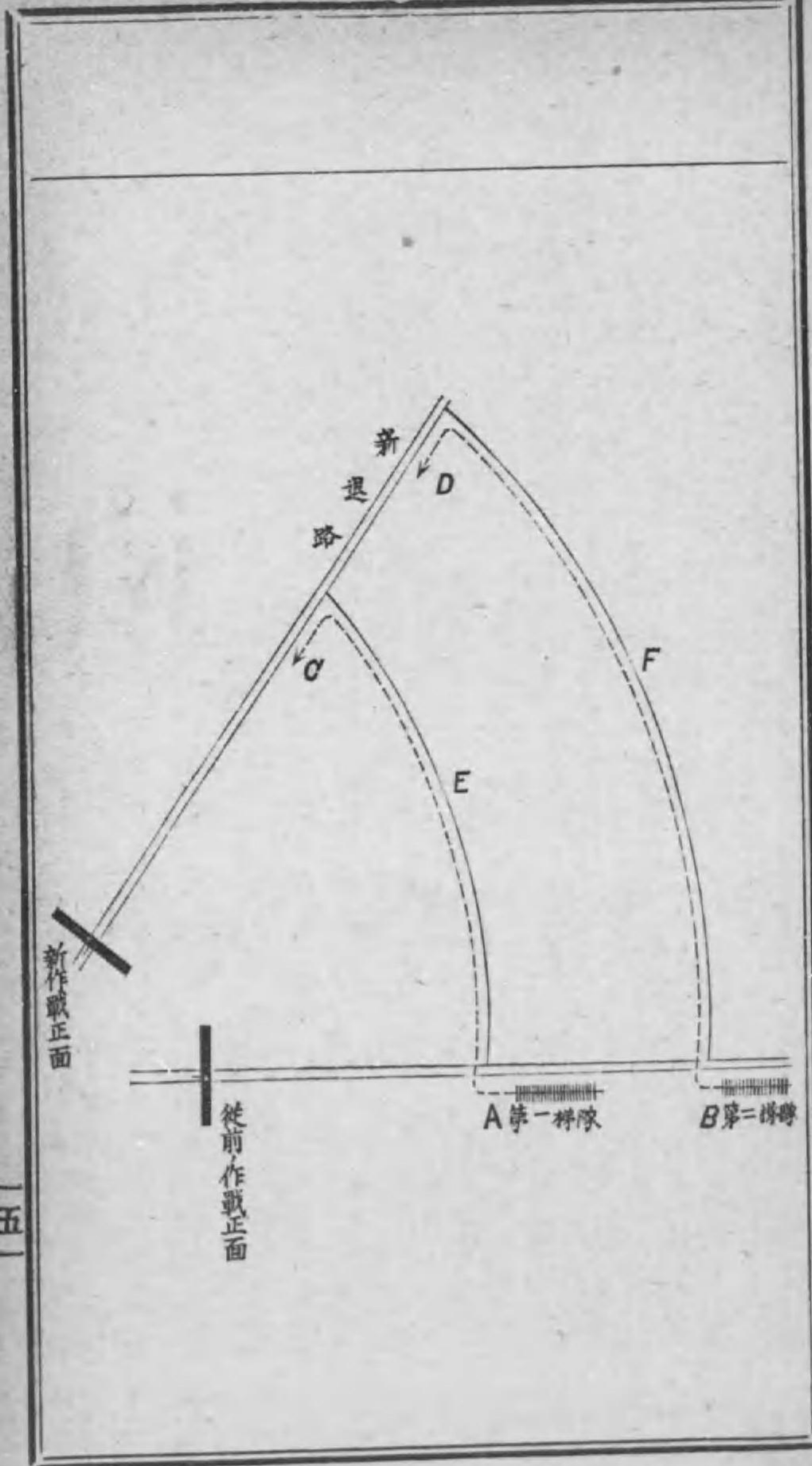
此他軍隊區分ニ關スル一ハ第一篇軍隊區分ノ條ヲ參照スベシ

旅團ハ今ヤ退路ヲ變換スルノ形勢ニ至リシガ此退路變換ニ關スル一  
般ノ注意ヲ若干左ニ述ヘン

抑々此退路ノ變換タルヤ實ニ重大ノ事業ナリ其幅重チ移スノミニテ  
モ道路ノ關係良好ナラサル時ハ甚ダシク時間ヲ要スルモノナリ況ン  
ヤ兵站諸部隊ニ至ルマテ悉皆チ移轉セシムルハ一朝一夕ノ事ニアラ  
ス

假令ヘハ左圖ニ於テ梯隊ガA Bヨリ新退路C Dニ移ラントスルニ當  
リE Fノ如キ恰モ好都合ナル道路アル時ハ尤モ可ナレトモ實際ニ於  
テハ此ノ如ク舊策線ト新策線チ聯絡スル交通路ハ乏シキ者ニシテ種





々届曲迂回シテ漸ク轉移ヲ爲シ得ル者ナリ蓋シ交通ノ原則トシテ其好ノ交道路ハ概ネ國部或ハ大商港灣ノ如キ一目標ニ向ツテ集達シ此交道路ト直角ナル方向ニ於ケル道路ハ不規則不完全ナルヲ免レズ而シテ主ナル交道路ノ集達點ハ多クノ場合ニ於テ戰界目標トナルモノナレハ策線ハ從ツテ此戰界目標ニ通スル交道路上ニアリ此クノ如キ有様ナルヲ以テ其戰略目標ニ通スル甲交道路ヨリ乙交道路ニ向ツテ後方部隊ヲ移轉セシムルノ聯絡路ニ不便ヲ感スルハ明了ナラン



之レテ例スルニ本邦ニ於テハ主ナル交通ハ國土ノ延長セル方向ニ縱  
 ヒ概ネ東西ニ通セリ東海道、中山道、山陽道ノ如シ是等ノ集連點ハ京都  
 東京等ニテ此都府ハ即チ戰略目標トナルモノニシテ策線ハ常ニ前記  
 ノ國道上ニアラザルヲ得ス而シテ中山道、東海道ノ彼此ヲ連絡スル交  
 通路ヲ見ヨ概ネ山脈ニ妨ゲラレ不完全ナル道路アレニ過ギス故ニ今  
 東海道ヨリ中山道ニ後方連絡線ヲ變換セントスルニ當リテハ其困難  
 知ルヘキナリ  
 以上ノ如キ形勢ハ天然ノ地形、國土ノ發達、人類ノ生存上自然ニ生スル  
 交通ノ原則ナリ試ミニ見ヨ本邦ノ地勢ハ國土ヲ縱斷スル中央大山脈  
 アリ此山脈ニ由テ日本海水徑ト太平洋水徑トニ區分セラレ甲ハ日本  
 海面ヨリ生スル風土ノ影響ヲ受ク乙ハ太平洋ヨリ生スル風土ノ影響  
 ヲ受ク爲メニ此大山脈ノ兩側ハ其風土季候ヲ異ニシ從ツテ國土ノ發  
 達モ自ラ不均ヲ生ズ而シテ此不均ヲ中和セントスルモ大山脈ハ  
 其交通ヲ妨ゲ中和ノ媒介ヲ與フルヲ得ス茲ニ個々ノ發達トナリ此發

達ノ自然形勢ト、山脈ニ妨ゲラル、地形上ノ關係ハ遂ニ國土ノ交通ヲ  
 東西ニ長足ノ發達ヲナサシメ之レニ反シ南北ニハ兎角冷淡不進歩ナ  
 ラシムル所以ナリ  
 右ハ一般戰畧上ノ大地形ニ於ケル觀察ナレトモ此影響ハ一局部ニ於  
 テモ亦タ同シ相模平原ハ幸ニ地形ノ障礙ナク何レノ方向ニモ隨意ニ  
 交通シ得ル地形ナレトモ自然ニ道路ノ發達ハ矢張右ノ原則外ニ出テ  
 サルヲ見ルナリ大山街道、丸子街道、東海道ノ如ク一連ノ規則狀道路ハ  
 東西ニ通シ此道路ヲ聯絡スル爲メ直角ニ通スル者ハ概ネ風曲不規則  
 ナリ  
 又一步ヲ進メ更ニ退路變換ノ困難ハ新舊退路ガ平行セズ或ル角度ヲ  
 爲ス時ニアリ假令ハ前圖ニ於ケル如シ此角度大ナルニ從ヒ後方部  
 隊ハ大距離ヲ行進セサレハ新退路ニ至ルヲ得スEヨリハF其距離大ニ  
 シテ第一梯隊ヨリ第二梯隊ハ多クノ距離ヲ行進スルヲ要ス尙ホ後方  
 ニ至ルニ從ヒ第二梯隊ヨリ更ニ大距離ヲ行進スルヲ要スル如シ故ニ



策線路數十里ニ亘リアル時之レチ斯クノ如キ大角度ヲ有スル新策線路上ニ移スニ當リ最後方ニアル兵站諸部隊ノ如キハ多數ノ日子ヲ費スニアラザレハ轉移ヲ終リ能ハサルヘシ

第十問

九月三日午後九時ノ命令ニ基キ左側支隊長及ヒ前衛司令官ノ處置

左側支隊長ガ九月三日午後九時ニ於ケル旅團命令ヲ受領スルハ早クモ午後十一時半過ギナラン而シテ明日ノ出發ハ旅團命令ニ由レハ午前五時ナルヲ以テ兵卒ハ午前六時過キヨリハ既ニ起床シテ發程用意ニ就クナリ且ツ各中隊長ハ明日ニ係ル命令ヲ承知スル迄ハ安眠スル

輕捷ノ運動ヲ以テ兵力ノ寡ヲ補ヒ以テ衆敵ニ對スル小支隊

第二篇攻撃ノ條其八參照

能ハス故ニ左側支隊長ハ速ニ明日ニ係ル命令ヲ下達シ殊ニ明日ハ勞働ノ甚シカラシコトハ旅團命令ノ任務ニ由テ推測セラル、ヲ以テ今夜ハ勉メテ兵隊ヲ安眠休憩セシムルコト緊要ナリ之レカ爲メ左側支隊長ハ迅速ニ自己ノ任務ヲ果スニ適當ナル考案ヲ定メ各其處置準備ヲナサ、ルベカラス夫レ明日ニ於ケル左側支隊ノ任務ハ殆ンド二倍ノ敵ニ對シテ之レヲ東海道方面ニ繫留スルニアリ抑モ繫留ナル意義ハ第二篇攻撃ノ條其八ニ於テ説述セシ如ク其動作タルヤ恰モ彈力護謨ノ如ク壓セハ柔軟抵抗セスシテ萎縮シ放テバ忽チ彈撥シ常ニ敵ニ觸接シテ敵ヲ自由ニ運動セシハサルニアリ故ニ左側支隊ハ明日前川附近ノ敵ニ觸接シ敵ガ我ヲ追フテ東海道方面ニ進メバ地形ニ依テ之レヲ拒支シツ、適宜ニ敵ヲ接待シ之レニ反



シ敵ガ若シ我ヲ放置シテ會屋方向ニ進ム場合ニ於テハ猛烈ナル攻撃ヲ以テ其運動ヲ妨害シ我方面ニ對セサルヲ得サルニ至ラシメサルヘカラス

繫留ノ任務困難ナル此クノ如シ加之我ハ寡、彼レハ衆ナリ、寡勢ヲ以テ衆勢ニ對シ此困難ナル任務ヲ果サン爲メニハ如何スレバ可ナルヤ曰ク左ノ二法ニ依頼スルノ外ナシ

- 一、輕捷ノ運動即ハチ機敏ノ動作ヲ以テ我寡勢ヲ補フコト
- 二、地形ヲ探究シ地利ニ依頼スルコト

是レニ因ツテ之レヲ見レバ左側支隊ノ動作ハ神變機動ヲ要シ勞ニ堪ヘ難ヲ凌ギ隊長ハ勇敢果斷機先ヲ以テ能ク敵ヲ制シ地形ヲ判斷スルノ明ヲ備ヘ兵力ノ最大力ヲ發揚セシムルノ能力ヲ有セサルヘカラス明日左側支隊ガ運動スヘキ地區ヲ大畧地圖ニ由テ支隊長ハ判斷スル

非常ノ運動  
ヲ要スル  
カ爲メニ  
準備ス

ナラン、見ヨ花水川以西ノ地區ハ高麗山ヲ基點トシテ一連ニ高地脈海岸ニ迫マリ海岸ニハ僅カニ一條ノ道路ヲ通スルニ過キサル平地ヲ餘スノミ此高地ハ以テ東海道ヲ制シ殊ニ敵ガ會屋方向ニ運動セントスル者ヲ抑留セントスルニ當リテハ是非共此高地ニ據ツテ拒止セサルヘカラス然ラハ明日ニ於ケル左側支隊ノ運動ハ主トシテ此高地上ニアリト謂フヘシ否ナ此高地ノ利ニ由ラサレバ寡ヲ以テ衆敵ニ對スル能ハス而シテ此ノ一連ノ高地ハ凹凸騎嶺、斷絶地ト隆起地ト交々相連リ迅速ノ運動ヲナスニハ頗ル努力ヲ要スヘシ

以上ノ如ク考察シ來レハ左側支隊長ハ概ネ左ノ處置、準備、注意ヲナスナラン

一、明日ノ作戰ハ地形ヲ利用シ持久戰ヲナサ、ルヘカラス從ツテ彈藥ノ費消ハ比較的多カルヘシ且ツ地形ノ爲メ中隊ハ分離シ交通



備スル特別ノ處置

歩兵ノ背囊ヲ運搬スルニ要スル人馬車輛數

不便彈藥ノ補充モ困難ナラン故ニ小行李ノ彈藥ヲ豫メ分配シテ各兵ニ携帶セシムルハ尤モ希望スル所ナレモ斯クスルトキハ一方ニ於テ兵卒ノ負擔量ヲ増スノ嫌ヒアリ故ニ小行李ノ三分一丈ケノ彈藥ヲ分配ス

二、兵卒ノ身體ヲ成ルヘク輕裝ナラシムルヲ希望ス即ハチ牛馬車輛人夫ヲ徵發シ兵卒ノ背囊ヲ運搬セシムルバ最良ナレトモ步兵一中隊ノ背囊ヲ運搬スル爲メニハ駄馬大約三十七頭ヲ要シ而シテ又一馬挽車輛ナレハ(一馬挽車輛ハ約二駄分ヲ積載シ得)十九輛ヲ要ス故ニ步兵一大隊ノ爲メニハ左表ノ員數ヲ要スル比例ニシテ此クノ如キ多數ヲ目下時刻モ深更ニ及ビアルヲ以テ悉ク徵發スルコト難カルヘシ然レトモ成シ得ル限り徵發シ斥候傳令等ノ勤務ニ服スル者ノ背囊丈ケナリトモ運搬セシム

步兵背囊ヲ運搬スルニ要スル人馬材料表

備	車輛ヲ以テス			駄馬ヲ以テス		種人馬材料		充用區分		積載用豫備	積載用豫備	合計	
	一馬挽車輛	挽馬	馬子	馬	駄馬	一	四	中	隊				分
徵發駄馬ハ軍役ニ慣レザル故持久力弱シ故ニ豫備馬ヲ備フルコト必要ナリ 車輛ハ馬匹ノ如ク途中廢物ヲ生スルコト稀ナリト雖不測ノ異	一九	一九	一九	三七	三七	一 <td>四 <td>中 <td>隊 <td>分</td> <td>二</td> <td>八</td> <td>一五六</td> </td></td></td>	四 <td>中 <td>隊 <td>分</td> <td>二</td> <td>八</td> <td>一五六</td> </td></td>	中 <td>隊 <td>分</td> <td>二</td> <td>八</td> <td>一五六</td> </td>	隊 <td>分</td> <td>二</td> <td>八</td> <td>一五六</td>	分	二	八	一五六
	八	1½	½	二	二	一 <td>四 <td>八</td> <td>八</td> <td>一 <td>五 <td>六</td> <td>一五六</td> </td></td></td>	四 <td>八</td> <td>八</td> <td>一 <td>五 <td>六</td> <td>一五六</td> </td></td>	八	八	一 <td>五 <td>六</td> <td>一五六</td> </td>	五 <td>六</td> <td>一五六</td>	六	一五六
	七六	七六	七六	一四八	一四八	八	八	一 <td>五 <td>六</td> <td>二</td> <td>七 <td>七八</td> </td></td>	五 <td>六</td> <td>二</td> <td>七 <td>七八</td> </td>	六	二	七 <td>七八</td>	七八
	三二	六	二	八	八	一 <td>五 <td>六</td> <td>一 <td>五 <td>六</td> <td>一 <td>五 <td>六</td> </td></td></td></td></td>	五 <td>六</td> <td>一 <td>五 <td>六</td> <td>一 <td>五 <td>六</td> </td></td></td></td>	六	一 <td>五 <td>六</td> <td>一 <td>五 <td>六</td> </td></td></td>	五 <td>六</td> <td>一 <td>五 <td>六</td> </td></td>	六	一 <td>五 <td>六</td> </td>	五 <td>六</td>
	一〇八	八二	七八	一五六	一五六								



考

變ニ備フル爲メ若干ノ豫備ヲ備フレハ好都合ナリ  
 鞍馬ハ駄馬ニ比スレハ廢物トナルコト小キ故其豫備數ハ駄馬  
 ヨリ少クシテ可ナリ  
 車輛ニ付スル豫備馬子ハ二輛若クハ三輛ニ一人ヲ付シ車輛運  
 轉ノ自由ナラサルトキ後押ヲナサシム

- 三、醫官ヲシテ診斷セシメ患者ノ處置ヲナシ軍隊ノ牽累ヲ省ク
  - 四、各中隊長ヲシテ服裝、裝具殊ニ靴ノ適否並ニ足傷ノ豫防等ニ關シ  
 充分ニ注意セシム
  - 五、成シ得レバ必要ノ場合ニ於テ輿畜劑用ニ供スル爲メ火酒、ブラン  
 デーノ如キ者ヲ徵發シ分配ス但シ其使用時機ハ嚴ニ命令ニ從ハ  
 シムルコト
- 以上ノ件々ハ各中隊長ヲ招致シテ訓令シ且ツ明日ノ運動ニ關スル命  
 令ヲ與フ此命令ハ單簡ニシテ可ナリ蓋シ小枝隊ノ爲メニハ概ネ出發

小枝隊ニ下  
 スヘキ命令

前集合場ニ於テ行軍ニ關スル口達命令ヲ與フルヲ普通トスレハナリ  
 故ニ前夜ニ於テハ唯ダ明朝集合スヘキ時刻ト地點並ニ大行李ニ關ス  
 ルコトノミヲ示セハ足レリ然レトモ前衛ノ如キ特別任務ニ服スル者  
 ニハ任務ヲ果ス爲メ其方法ヲ熟考スルノ時間ヲ得セシムル爲メ前夜  
 ヨリ其任務ヲ告知シ置クモ可ナリ

左側枝隊命令

九月三日午後十二時  
 藤澤大隊本部ニ於テ

- 一、少クモ歩兵ニ大隊(若干ノ砲兵ヲ有ス)ヲ下ラサル敵ハ前川附近ニア  
 リ
- 又千村附近ニハ諸兵連合ノ一枝隊アリ
- 旅團本隊ハ明日午前七時用田附近ヲ出發シ千村附近ノ敵ニ向ツテ  
 大山街道上ヲ前進ス



- 二、左側枝隊ハ明日前川附近ノ敵ニ向ツテ前進シ此敵ヲ東海道方面ニ繫留セントス
- 三、前哨ハ午前四時五十分ヨリ撤去シ前哨中隊ノ位置ニ集合スヘシ
- 四、本隊ハ午前五時迄ニ警急集合所ニ集合スヘシ
- 五、大行李ハ諸隊出發ノ後警急集合所ニ集合シ千五百米ノ距離ヲ以テ本隊ニ跟随スヘシ
- 六、余ハ午前五時警急集合所ニアリ

少佐某

此命令ハ各中隊長ニ口達ス但シ前哨中隊長ニハ一通ヲ筆記シテ送達ス  
 第二中隊長ニハ明日前衛タルヘキコトヲ豫令シ置ク

前衛司令官ノ處置

前衛司令官

ハ九月三日午後九時ニ於ケル旅團命令ヲ受領スルヤ明日ニ關スル前衛命令ヲ下サ、ルヘカラス此前衛命令モ亦前陳左側支隊命令ト同シ要項ニシテ本夜ハ唯ダ明日集合ニ關スル大要ノコトノミヲ命シ置キ他ハ集合所ニ於テ命スヘキモノトス但シ新ニ配屬サレタル砲兵、工兵等ハ旅團司令部ニ於テ命令受領ノ時共ニ敵狀目的等ヲ承知シタルヲ以テ明日何時何地ニ集合スヘキコト丈ケテ前衛司令官ヨリ更ニ命令セハ可ナリ然ルニ此等ハ概ネ旅團司令部ニ於テ命令受領ノ時直チニ其場ニ於テ前衛ノ命令受領者(通常副官)ト新ニ配屬サレタル隊ノ命令受領者ト協議シ集合時刻地點ヲ定メテ別袖スルモノナルヲ以テ其協定シタル時刻地點ガ前衛司令官ノ意圖ニ反セサレハ最早別ニ命令ヲ送ルニ及バス